

記者発表（配付）資料

令和8年6月8日

所属部課	消 防 長	課 長	課長補佐	係 長	担 当	連絡先
萩市消防本部 消防総務課	堀 秀通	瀧口 吉祥	野稻 健司	西村 誠人	光永 聖治郎	0838-25-2780

件 名	萩市の消防情勢（萩消防のあゆみと火災・救急件数）がわかる 「令和7年（2025年）消防年報」を作成しました！
-----	-----------------------------------------------------------

萩市消防本部の活動を広く一般に紹介し、消防行政や防火・防災に活用していただくため、令和7年中の消防の体制、業務の内容（火災救急統計）、防火対象物や消防団の状況を掲載した「令和7年（2025年）消防年報」を作成しましたので、お知らせします。

●閲覧場所

市公式ホームページ

<https://www.city.hagi.lg.jp/soshiki/88/h71162.html>



※目的毎にダウンロードや印刷が可能です。

※統計資料は、火災・救急・救助は暦年による統計、その他は令和8年4月1日現在の状況を記載しています。

消 防 年 報

令和7年（2025年）



萩市消防本部

令和8年6月刊行

は し が き

この年報は、萩市消防本部の消防業務に関する諸般の実績及び萩市、阿武町の消防現勢を収録し、今後の消防行政に資するとともに、消防事情を広く紹介するために編集したものです。

消防関係者はもとより、広くあらゆる方面でご活用いただき消防行政についてご理解いただければ幸いです。

なお、この年報は火災・救急・救助については令和7年中、その他は当該表にそれぞれ記載する年月日等で表しております。

令和8年6月

萩市消防本部

目 次

1 地 勢	
地 勢	・・・ 1
2 萩消防のあゆみ	
沿 革	・・・ 2
歴代消防長	・・・ 8
歴代消防団長	・・・ 9
3 総務関係	
消防本部・消防署の現況	・・・ 10
萩市一般会計当初予算と消防費当初予算	・・・ 11
消防本部組織図	・・・ 12
消防職員の現況	・・・ 13
4 警防関係	
現有消防車両等（常備消防）	・・・ 14
消防水利	・・・ 15
5 火災関係	
火災概要	・・・ 16
令和7年の火災発生状況	
火災発生件数と損害額	・・・ 16
火災発生件数（月別）、地域別火災発生件数、建物焼損棟数（月別）	・・・ 17
焼損面積（月別）、り災世帯・り災人員（月別）、損害額（月別）	・・・ 18
火災原因別出火件数、過去5年の主な火災原因別出火件数、過去5年の火災状況	・・・ 19
時間別火災発生件数、過去5年の時間別火災発生件数、過去10年の火災件数と死傷者数	・・・ 20

6 救急関係

救急概要	・・・ 2 1
救急出動件数と種別の割合	・・・ 2 1
令和 7 年月別救急出動件数と搬送人員	・・・ 2 2
令和 7 年地域別救急状況	・・・ 2 3
令和 7 年傷病程度別搬送人員	・・・ 2 3
令和 7 年事故種別・年齢区分別搬送人員	・・・ 2 4
令和 7 年医療機関別搬送人員	・・・ 2 4
過去 5 年の管轄内・管轄外搬送状況	・・・ 2 5
過去 5 年のドクターヘリ出動実績	・・・ 2 5
過去 5 年の救急状況	・・・ 2 6
救急出動状況の推移	・・・ 2 6
心肺蘇生法及び普通救命講習等受講状況	・・・ 2 7、2 8

7 救助関係

救助概要	・・・ 2 9
令和 7 年救助出動件数	・・・ 2 9
令和 7 年地域別救助活動状況	・・・ 3 0
過去 5 年の救助活動状況	・・・ 3 0
救助活動用機械器具等の保有状況	・・・ 3 1

8 予防関係

防火対象物数（消防法第 1 7 条第 1 項該当）及び査察実施状況	・・・ 3 2
中高層建築物（4 階以上）	・・・ 3 3
講習等実施状況	・・・ 3 4
危険物規制対象物	・・・ 3 4
危険物製造所等の事務処理状況	・・・ 3 4
危険物製造所等立入検査状況	・・・ 3 4

9 消防団関係

消防団組織表	・・・ 3 5、3 6
消防団の概要	・・・ 3 7
階級別団員数、団員の在職年数、年齢別団員数、団員年報酬、団員出動報酬	
消防団活動状況	・・・ 3 7

1 0 防災関係

防災メールの登録方法	・・・ 3 8
------------	---------

1 地 勢

<地勢>

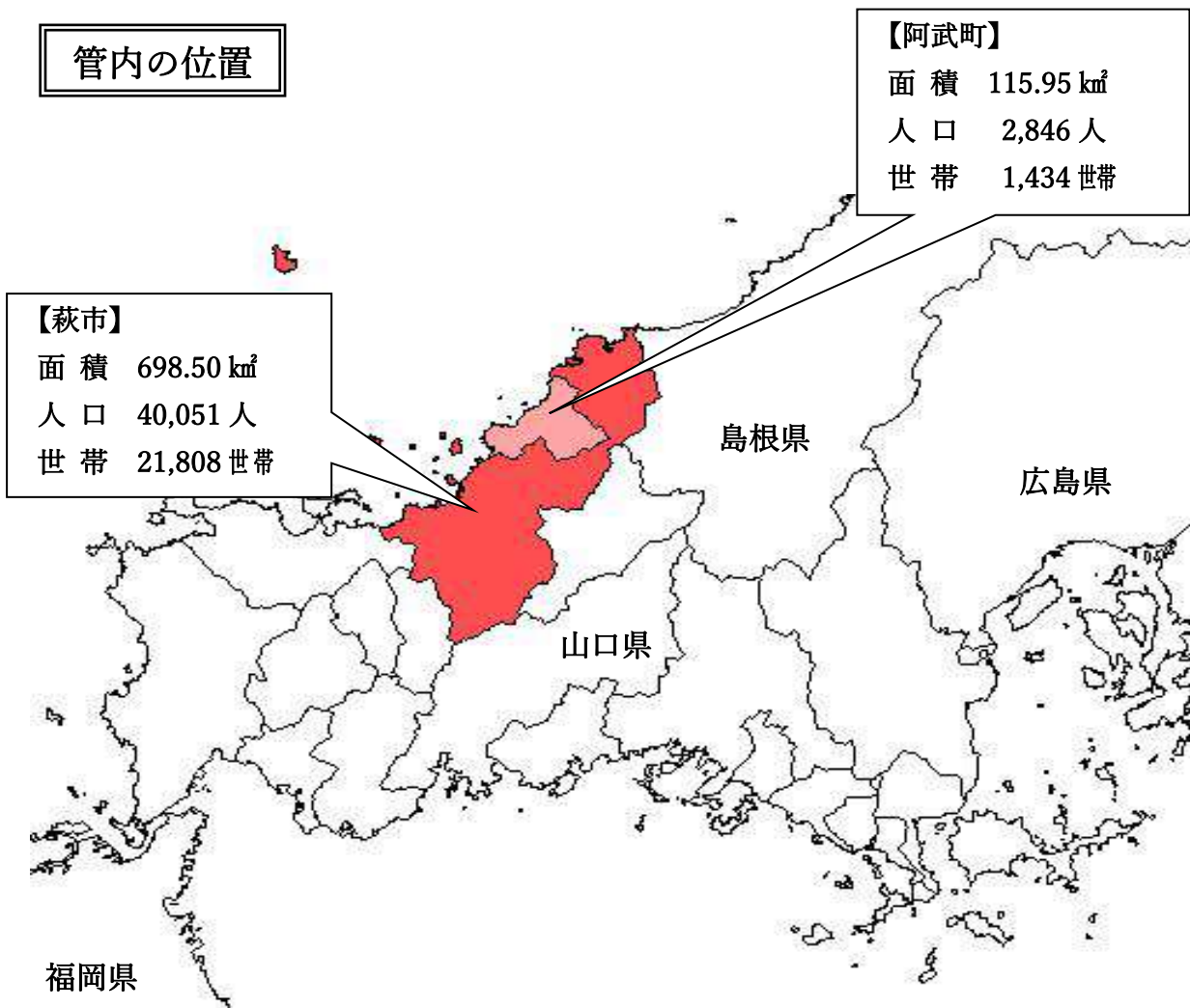
萩市は、山口県の北部に位置し、総面積は 698.50 k m²で、県土の 11.4%を占めます。北部は日本海に面し、東部は益田市及び津和野町（島根県）、南東部は山口市、西部は長門市及び美祢市に接しています。

地形は、全体として東部の中国山地から北西部の日本海に向かう傾斜地で、南部市境界付近に標高 700mを超える山々が連なっています。低地は少なく、二級河川阿武川河口部に形成された三角州にある市街地とその周辺地に見られる丘陵地は、田万川地域から須佐地域にかけての臨海部に比較的なだらかに広がっている程度で、大半を山地が占めています。

日本海の沖あいには、大島、相島、櫃島、羽島、肥島、尾島の六つの平らな火山島が浮かび、約 45 km先には見島があります。そのうち見島、大島、相島、櫃島は有人島で、市全体の海岸線延長は約 151km です。

気候は、沿岸部においては対馬海流の影響を受けて比較的温暖であり、中山間部においては盆地特有の気候で、変化に富んだ豊かな自然環境を有しています。

なお、当市は阿武郡阿武町から常備消防に関する事務を受託しており、当消防本部の管轄区域は、両市町を合わせ人口 42,897 人、世帯数 23,242 世帯、面積 814.45 km²となっています。



令和 8 年 4 月 1 日現在

2 萩消防のあゆみ

<沿革>

年 月 日	記 事
万治4年(寛文元年) (1661年)	「火消条々」を含む『万治制法』制定
享保9年(1724年)	町ごとに仮小屋の辻番所を設け、端坊の時鐘の上に望火楼を設けて火消組を常勤させる。
寛保元年(1741年)	橋本川・松本川の洪水に際して、萩城下町人の出動についての規定を布達する。
天保12年(1841年)	71箇所あった辻番所を22箇所に削減し、回番所と改称する。 松原口・松本橋本番所口番所・中渡・鶴江台に鐘楼を設ける。
明治27年10月27日 (1894年)	勅令「消防組規則」・県令「消防組施行細則」が制定され、町会において「巴城消防組設置諮問案」が可決される。
明治43年8月29日 (1910年)	町会において、巴城消防組を「萩町消防組」と改称することを可決する。
明治44年3月20日	萩町消防組を第一部(新堀川以南)と第二部(新堀川以北)に分ける。 山田村消防組が知事より許可され、公設消防組となる。
大正8年2月27日 (1919)	消防手58名を96名に増員し、制服を洋服式から法被式に改め、消防器具を増強
大正10年6月2日	萩町水防準備細則が制定
大正11年12月11日	萩消防後援会(会長:菊屋剛十郎)が蒸気唧筒2台を寄付
大正12年12月23日	萩町消防組を第一部・第二部・第三部(大字山田村)に分ける。
大正13年2月29日	萩町消防組に小畑浦私設消防組を合同編入し、第四部を設置
大正15年8月30日	出動合図がモーターサイレンとなる。
昭和4年10月24日	萩町水防組規定が制定
昭和7年8月27日	萩公設消防組がレオ市原式自動車ポンプ1台を萩市へ寄付
昭和11年3月7日	萩市消防組を本部・第一部・第二部・第三部・第四部(大字椿東村)に分ける。
昭和14年4月1日	警防団令が公布され、萩市警防団が設置されて消防組・水防組及び防護団は解散
昭和22年10月1日	萩市消防団設置条例が制定され、萩市警防団を改組し、新たに萩市消防団が組織され、団本部と9個分団・団員500名となる。
昭和24年7月1日	萩市消防本部設置条例が制定され市役所内に萩市消防本部を設置 同年、萩市危険物取締条例及び萩市火災予防条例が制定される。
昭和27年6月1日	消防団を11個分団とし、団員280名となる。
昭和29年3月30日	萩市大字江向431番地に消防庁舎が新築される。
昭和30年3月1日	市町村合併(三見村・大井村・六島村・見島村)により消防団を16個分団とし、団員655名となる。

昭和 32 年 7 月 1 日	萩市消防本部の機構改革により、2 係（消防係・予防査察係）とし、消防職員 4 名となる。
昭和 33 年 4 月 1 日	消防団を 19 個分団とし、団員 534 名となる。
昭和 36 年 2 月 15 日	日本消防協会長から萩市消防団に表彰旗を授与される。
昭和 40 年 2 月 10 日	常備消防開設に伴い消防庁舎を増築し、萩市消防本部の機構改革により、2 課 4 係（庶務課：庶務係）（予防課：予防係・消防係・調査係）とし、職員 13 名となる。
昭和 40 年 4 月 1 日	萩市消防署開設。水槽付ポンプ自動車 1 台、消防ポンプ自動車 1 台、小型動力ポンプ 1 台が設置され、職員 30 名となる。
昭和 41 年 3 月 7 日	昭和 40 年 7 月の集中豪雨による活動に対し、山口県知事から萩市消防本部・萩市消防団に表彰状が授与される。
昭和 41 年 4 月 1 日	消防団員の定員を 444 名に改める。
昭和 43 年 5 月 1 日	救急業務が開始され、救急車 1 台を配備し、職員 3 名が増員
昭和 51 年 3 月 7 日	山口県知事から萩市消防本部・萩市消防団に竿頭綬が授与される。
昭和 51 年 3 月 20 日	山口県生命建物共済農業協同組合連合会長、萩市・見島・三見・大井各農業共同組合長が救急車 1 台を寄贈
昭和 51 年 4 月 1 日	1 町 4 村（阿武町・旭村・川上村・福栄村・むつみ村）から救急委託を受け、広域救急業務を開始。職員 6 名を増員し、総員 39 名となる。
昭和 52 年 2 月 18 日	社団法人日本自動車工業会が救急車 1 台を寄贈
昭和 52 年 3 月 4 日	消防庁長官から萩市消防本部・萩市消防団に竿頭綬が授与される。
昭和 52 年 9 月 5 日	東京海上火災保険株式会社が広報車 1 台を寄贈
昭和 56 年 2 月 11 日	日本消防協会長から萩市消防団に最高栄誉賞まといが授与される。
昭和 56 年 3 月 7 日	山口県知事から萩市消防本部・萩市消防団に表彰旗が授与される。
昭和 57 年 9 月 21 日	日本消防協会が指令広報車 1 台を寄贈
昭和 57 年 12 月 15 日	消防署に車庫を新築する。（鉄骨スレート葺き 57.35 m ² ）
昭和 58 年 2 月 15 日	中高層建築物の災害対策として、はしご付消防自動車(35m 級)を配置し、職員 4 名が増員
昭和 58 年 3 月 3 日	消防庁長官から萩市消防本部・萩市消防団に表彰旗が授与される。
昭和 59 年 10 月 23 日	社団法人日本損害保険協会が救助工作車 1 台を寄贈
昭和 60 年 10 月 1 日	消防テレホンサービス（25 - 7474）を開設
昭和 61 年 11 月 13 日	財団法人萩交通安全事業普及協会が広報車 1 台を寄贈
昭和 62 年 3 月 4 日	社団法人日本損害保険協会が救急車 1 台を寄贈
昭和 62 年 6 月 22 日	財団法人日本防火協会が防火広報車 1 台を寄贈
平成 2 年 1 月 11 日	山口県生命建物共済農業協同組合連合会長他農業共同組合長が救急車 1 台を寄贈
平成 4 年 10 月 1 日	衛星通信ネットワークが開設
平成 5 年 2 月 15 日	水槽付消防ポンプ自動車を更新
平成 5 年 3 月 7 日	山口県知事から萩市消防本部・萩市消防団に竿頭綬が授与される。
平成 6 年 10 月 25 日	指令広報車を更新
平成 6 年 11 月 1 日	C A T V を利用しての緊急情報システムを導入

平成 7 年 11 月 15 日	救急救命士国家試験に合格（1 人目）
平成 8 年 7 月 26 日	萩市総合防災訓練を実施
平成 9 年 3 月 10 日	高規格救急自動車及び救急資器材を購入
平成 9 年 4 月 1 日	高度救急業務を開始
平成 11 年 5 月 1 日	萩市防災メールによる火災情報配信を開始
平成 11 年 11 月 15 日	消防庁舎が新築され、竣工式を行う。
平成 12 年 4 月 1 日	1 市 3 町 4 村の常備消防化のため、萩地区広域市町村圏組合消防本部が発足し、消防職員定数が 77 名となり。3 課 1 室 5 係（総務課：庶務係・会計係）（予防課：予防 1 係・予防 2 係）（警防課：通信指令室・警防係）体制となる。新規に消防職員を 12 名採用し、現有人員 59 名となる。
平成 13 年 3 月 9 日	弥富出張所配備の高規格救急自動車及び救急資器材を購入
平成 13 年 3 月 19 日	弥富出張所用の指令広報車を購入
平成 13 年 4 月 1 日	萩地区広域市町村圏組合萩消防署弥富出張所を開設、高規格救急車 1 台を配備して須佐町・田万川町の救急業務を開始する。新規に消防職員 12 名を採用し、現有人員 68 名となる。 萩地区広域市町村圏組合萩消防署の機構改革により、3 小隊とする。
平成 13 年 8 月 30 日	山口県総合防災訓練 in 萩を河添河川公園で実施
平成 14 年 3 月 14 日	山之内製薬株式会社が高規格救急車 1 台を寄贈。救急資器材を購入。
平成 14 年 3 月 20 日	紫福分遣所用の指令広報車を購入
平成 14 年 4 月 1 日	萩地区広域市町村圏組合萩消防署紫福分遣所を開設し、高規格救急車を 1 台配備する。それに伴い、救急出動範囲を一部変更する。新規に消防職員 9 名を採用し、現有人員が条例定数の 77 名となる。 萩地区広域市町村圏組合萩消防署の機構改革により、4 小隊とする。
平成 14 年 6 月 24 日	指令広報車及び防火広報車を更新
平成 14 年 7 月 24 日	積載車を更新
平成 14 年 11 月 28 日	高規格救急自動車及び救急資器材を更新
平成 14 年 12 月 27 日	弥富出張所にポンプ車及び警防資器材を購入
平成 15 年 3 月 28 日	弥富出張所一部増築（ホース乾燥台等）
平成 15 年 4 月 1 日	萩消防署弥富出張所に消防ポンプ自動車 1 台を配備し、管内北部地区の消防業務を開始。これに伴い、火災出動範囲を一部変更する。
平成 15 年 8 月 22 日	運搬車としてトラックを購入
平成 15 年 12 月 22 日	消防ポンプ自動車（CD-I 型）を更新
平成 16 年 3 月 10 日	化学消防ポンプ自動車（I 型）を購入
平成 16 年 4 月 1 日	萩地区広域市町村圏組合萩消防署の機構改革により、2 中隊各 3 小隊とする。
平成 16 年 11 月 25 日	救助工作車（II 型）を更新
平成 17 年 3 月 5 日	萩地区広域市町村圏組合解散
平成 17 年 3 月 6 日	市町村合併により新「萩市」が誕生、新市移行に伴い名称を萩市消防本部及び萩市消防署に変更する。

	<p>萩市消防本部の機構改革により、3課1室6係（総務課：総務管理係・消防団係）（警防課：警防係・救急係・通信指令室）（予防課：予防1係・予防2係）と体制とする。消防職員条例定数92名とし、現有人員が81名となる。</p> <p>消防団も7市町村で合併。新「萩市消防団」が誕生する。</p> <p>萩市消防団の機構改革により、1団7本部55分団とし、消防団員条例定数を1,401名とする。現有人員が1,280名となる。</p>
平成17年7月1日	不特定多数の人が出入りするホテル・店舗等で救急事案が発生した場合、救急隊が到着するまでに適切な処置を取れる事業所を養成する「救急ステーション認定制度」を開始
平成17年10月19日	携帯電話からの119番通報が、分散受信方式（代表消防本部から管轄消防本部へ転送）から直接受信方式に移行する。
平成17年12月14日	日本テレコム・KDDI・NTT西日本3社によるIP電話が通信指令室に設置（IP電話～インターネットを活用した電話サービス）
平成18年4月1日	新規消防職員10名を採用し、現有人員88名となる。
平成18年5月31日	気管挿管の認定を受ける。（1人目）
平成18年7月1日	紫福分遣所に積載車を配備する。火災出動範囲を一部変更する。
平成18年10月5日	薬剤投与の認定を受ける。（1人目）
平成19年3月	国民保護計画策定
平成19年4月1日	萩市消防署佐々並分遣所を開設し、高規格救急車・指令車を各1台配備、救急出動範囲を一部変更する。萩市消防署の機構改革により5小隊とする。佐々並分遣所で、萩市佐々並支所の夜間・休日業務の受託事務を開始する。
平成19年4月1日	液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律の施行に関する事務を山口県から権限移譲を受け事務を開始する。
平成19年4月1日	予防技術資格者認定（6名）
平成20年2月	萩市離島の消防力整備計画策定
平成20年4月15日	萩市、益田市、津和野町及び益田地区広域市町村圏組合広域消防相互応援協定を締結
平成21年3月	萩市消防本部における新型インフルエンザ対策のための業務継続計画策定 萩市消防団協力事業所表示制度制定
平成21年4月1日	新規消防職員2名を採用し、現有人員86名となる。
平成21年11月16日	萩市消防署に、35m級はしご付消防自動車を更新する。
平成22年4月1日	萩市消防団の機構改革により、1団7本部53分団とする。
平成23年3月11日	東日本大震災発生により、萩市消防本部から5名の隊員を緊急消防援助隊山口県隊に派遣（3月14日～3月22日：宮城県石巻市）
平成23年4月1日	新規消防職員4名を採用し、現有人員87名となる。 萩市消防団の機構改革により、1団7本部54分団とする。 火薬類取締法及び武器等製造法に係る事務の一部を山口県から権限移譲を受け事務を開始する。

平成 24 年 4 月 1 日	新規消防職員 4 名を採用し、現有人員 90 名となる。 ガス事業法並びに石油液化ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律に係る事務の一部を、地域主権推進一括法（第 2 次）により権限移譲を受け事務を開始する。
平成 24 年 12 月 1 日	萩市総合防災訓練を萩潟港多目的広場で実施
平成 25 年 2 月 14 日	高規格救急自動車及び救急資器材を更新
平成 25 年 4 月 1 日	新規消防職員 4 名を採用し、現有人員 92 名となる。 消防救急デジタル無線運用開始
平成 25 年 7 月 28 日	萩市東部集中豪雨災害が発生、須佐で観測史上最大の 1 時間の降水量が 138.5mm、また午前 9 時 20 分からの 3 時間雨量が 301.5mm を観測し、気象庁から「これまでに経験したことのないような大雨」と発表されるなど記録的な豪雨となり、須佐、田万川、むつみ地域で未曾有の災害となった。
平成 25 年 11 月 25 日	平成 25 年 7 月の萩市東部豪雨災害における功績により、萩市消防団が国土交通大臣表彰を受ける。
平成 26 年 2 月 24 日	水槽付消防ポンプ自動車（Ⅱ型）を更新
平成 26 年 3 月 7 日	平成 25 年 7 月 26 日大雨災害における功績により、萩市消防団が山口県知事表彰を受ける。
平成 26 年 4 月 1 日	新規消防職員 2 名を採用し、現有人員 90 名となる。
平成 26 年 8 月 28 日	広島市豪雨災害発生により、萩市消防本部から 3 名の隊員を緊急消防援助隊山口県隊に派遣（8 月 28 日～8 月 29 日：広島県広島市）
平成 26 年 9 月 1 日	平成 25 年 7 月の萩市東部豪雨災害における功績により、萩市消防団が内閣総理大臣表彰を受ける。
平成 26 年 11 月 11 日	平成 26 年 8 月 20 日の広島市豪雨災害における功績により、萩市消防本部が広島市長から感謝状を受ける。
平成 27 年 2 月 6 日	平成 26 年 8 月 20 日の広島豪雨土砂災害における功績により、消防庁長官から賞状を受ける。
平成 27 年 3 月 5 日	高規格救急自動車及び救急資器材を更新
平成 27 年 4 月 1 日	新規消防職員 4 名を採用し、現有人員 91 名となる。
平成 27 年 11 月 6 日	通信指令施設（離島型）を更新、発信地表示・A V M・動画伝送機能追加
平成 28 年 3 月 9 日	高規格救急自動車 1 台及び救急資器材を更新
平成 28 年 3 月 28 日	指令広報車 1 台更新
平成 28 年 4 年 1 日	現有人員 90 名となる。
平成 28 年 4 月 16 日	熊本県地震発生により、萩市消防本部から 22 名の隊員を緊急消防援助隊山口県隊に派遣（4 月 16 日～4 月 21 日：熊本県阿蘇市）
平成 29 年 2 月 8 日	平成 28 年熊本地震における功績により消防庁長官表彰を受ける。
平成 29 年 2 月 20 日	指令広報車 1 台更新
平成 29 年 4 月 1 日	新規消防職員 3 名を採用し、現有人員 90 名となる。 萩市消防団の機構改革により、1 団 7 本部 57 分団とする。

平成 29 年 7 月 6 日	九州北部豪雨災害発生により、萩市消防本部から 45 名の隊員を緊急消防援助隊山口県隊に合流派遣 (7 月 6 日～7 月 20 日：福岡県朝倉市、朝倉郡東峰村)
平成 29 年 10 月 1 日	萩市消防団の機構改革により、1 団 7 本部 58 分団とする。
平成 29 年 12 月 26 日	高規格救急自動車 1 台及び救急資器材を更新
平成 30 年 2 月 8 日	平成 29 年 7 月九州北部豪雨災害における功績により、消防庁長官から賞状を受ける。
平成 30 年 2 月 23 日	指令広報車 1 台更新
平成 30 年 4 月 1 日	新規採用職員 2 名を採用し、現有人員 89 名となる。 消防団員条例定数を 1,244 名とする。
平成 30 年 7 月 6 日	平成 30 年 7 月豪雨災害発生により、萩市消防本部から 26 名の隊員を緊急消防援助隊山口県隊に合流派遣 (7 月 6 日～7 月 17 日：広島市及び安芸郡海田)
平成 30 年 12 月 11 日	公益財団法人日本消防協会が指揮指令車 1 台を寄贈(指揮指令車を更新)
平成 31 年 2 月 5 日	平成 30 年 7 月豪雨災害における功績により、消防庁長官から賞状を受ける。
平成 31 年 2 月 26 日	指令広報車 1 台更新
平成 31 年 4 月 1 日	萩市消防本部の機構改革により、萩市消防本部警防課通信指令室に指令第 1 係と指令第 2 係を配置し、萩市消防署を 6 小隊とする。 新規採用職員 2 名を採用し、現有人員 91 名となる。
令和 元年 12 月 26 日	一般社団法人日本損害保険協会から高規格救急自動車 1 台を寄贈 (高規格救急自動車及び救急資器材を更新)
令和 2 年 4 月 1 日	新規消防職員 2 名を採用し、現有職員 92 名となる。
令和 2 年 7 月 6 日	令和 2 年 7 月豪雨災害発生により、萩市消防本部から 56 名の隊員を緊急消防援助隊山口県隊に合流派遣 (7 月 6 日～7 月 11 日：熊本県八代市及び球磨郡球磨村)
令和 3 年 2 月 9 日	令和 2 年 7 月豪雨災害における功績により、消防庁長官から賞状を受ける。
令和 3 年 3 月 10 日	消防ポンプ自動車 1 台更新
令和 3 年 3 月 11 日	高規格救急自動車 1 台及び救急資器材を更新
令和 3 年 3 月 18 日	指令広報車 1 台、積載車 1 台更新
令和 3 年 3 月	萩市国土強靱化地域計画策定
令和 3 年 4 月 1 日	新規消防職員 2 名を採用し、現有職員 91 名となる。
令和 4 年 1 月 12 日	消防ポンプ自動車 (CD-1 型) 1 台更新
令和 4 年 3 月 11 日	高規格救急自動車 1 台及び救急資器材を更新
令和 4 年 4 月 1 日	萩市消防本部の機構改革により、萩市消防署を 8 小隊とし、本署及び各署所に 1 小隊及び 2 小隊を配置する。 新規消防職員 4 名を採用し、現有職員 93 名となる。
令和 5 年 3 月 23 日	小型動力ポンプ付積載車 1 台更新

令和 5年 3月 24日	化学消防ポンプ車（Ⅰ型）1台更新
令和 5年 4月 1日	新規採用消防職員2名を採用、現有職員94名となる。 消防職員条例定数を103名とする。
令和 6年 3月 26日	資機材搬送車1台更新
令和 6年 4月 1日	新規採用消防職員3名を採用、現有職員95名となる。
令和 7年 4月 1日	新規採用消防職員4名を採用、現有職員97名となる。
令和 7年 11月 1日	3市共同（萩市、山口市及び防府市）による消防通信指令業務の運用開始。山口市に山口県央消防指令センターを設置し、3名の職員を派遣する。
令和 7年 11月 5日	救助工作車（Ⅱ型）1台更新
令和 8年 4月 1日	新規採用消防職員4名を採用、現有職員97名となる。

<歴代消防長>

●萩市消防本部（旧萩市）

	氏名	就任期間	備考
	助役等兼務		
	柴田 敏夫	昭和32年～	専任の消防長を配置
	桐山慶二郎	昭和36年～	
	槌田 富祐	昭和40年～	
	池田 修亮	昭和45年～	
	山本 正治	昭和47年11月1日～昭和52年11月31日	
	山根 文二	昭和52年11月1日～昭和55年3月31日	
	村岡 明	昭和55年4月1日～平成元年3月31日	
	田坂 利人	平成元年4月1日～平成4年3月31日	
	新山 幹夫	平成4年4月1日～平成5年3月31日	
	松浦 芳晴	平成5年4月1日～平成6年3月31日	
	森脇 智一	平成6年4月1日～平成7年3月31日	
	坪井 淑郎	平成7年4月1日～平成10年3月31日	
	長岡 洋児	平成10年4月1日～平成12年3月31日	

●萩地区広域市町村圏組合消防本部

	氏名	就任期間	備考
初代	長岡 洋児	平成12年4月1日～平成13年3月31日	前・萩市消防長
2代	山下 富雄	平成13年4月1日～平成14年3月31日	前・消防次長兼警防課長兼消防署長
3代	波多野一郎	平成14年4月1日～平成16年3月31日	前・萩市議会事務局長
4代	山根 道生	平成16年4月1日～平成17年3月6日	前・萩市総務部長

●萩市消防本部（合併後）

	氏名	就任期間	備考
初代	山根 道生	平成17年3月7日～平成17年5月9日	前・萩広域組合消防長
2代	大崎 弘美	平成17年5月10日～平成19年3月31日	前・商工観光部長
3代	中屋 健司	平成19年4月1日～平成21年3月31日	前・消防署長
4代	米原 祥三	平成21年4月1日～平成22年3月31日	前・議会事務局長
5代	杉山 龍二	平成22年4月1日～平成23年3月31日	前・市民部次長
6代	松浦 俊生	平成23年4月1日～平成25年3月31日	前・消防署長
7代	松原 純二	平成25年4月1日～平成26年3月31日	前・消防本部理事
8代	中原 滝雄	平成26年4月1日～平成28年3月31日	前・市民部長
9代	寺川 清美	平成28年4月1日～平成30年3月31日	前・消防署長
10代	野原 和正	平成30年4月1日～令和3年3月31日	前・警防課長
11代	鶴屋 弘	令和3年4月1日～令和4年3月31日	前・消防次長兼警防課長
12代	阿武 均	令和4年4月1日～令和5年3月31日	前・消防次長兼警防課長
13代	礒部 誠	令和5年4月1日～令和7年3月31日	前・消防次長兼警防課長
14代	元澤 慎一	令和7年4月1日～令和8年3月31日	前・消防次長兼消防署長
15代	堀 秀通	令和8年4月1日～	前・消防次長兼消防署長

<歴代消防団長>

●萩市消防団（旧萩市）

	氏名	就任期間	備考
初代	吉賀 要作	昭和22年～昭和29年	
2代	岡崎 寿義	昭和29年～昭和32年	
3代	田中 虎熊	昭和32年～昭和61年	
4代	伊藤 正二	昭和61年～平成4年6月30日	
5代	金子 利蔵	平成4年7月1日～平成13年11月30日	
6代	中村 誠	平成13年12月1日～平成17年3月6日	

●萩市消防団（合併後）

	氏名	就任期間	備考
初代	中村 誠	平成17年3月7日～平成17年7月31日	
2代	林 安繁	平成17年8月1日～平成23年11月30日	
3代	山根 勝美	平成23年12月1日～平成31年3月31日	
4代	原田 明	平成31年4月1日～令和7年3月31日	
5代	吉村 辰市	令和7年4月1日～	

3 総 務 関 係

<消防本部・消防署の現況>



萩市消防本部・萩市消防署

TEL 0838-25-2772

FAX 0838-26-3945

所在地 萩市大字江向428番地2

建物構造 鉄筋コンクリート造2階建

建築面積 1390.81㎡

延床面積 2031.06㎡

敷地面積 3754.87㎡

建築年月日 平成11年9月30日



萩市消防署訓練塔

所在地 萩市大字江向428番地2

建物構造 鉄筋コンクリート造6階建

建築面積 48.00㎡

延床面積 288.00㎡

建築年月日 平成11年9月30日



萩市消防署弥富出張所

TEL 08387-8-5119

FAX 08387-8-5120

所在地 萩市大字弥富上1505番地1

建物構造 鉄骨造平屋建

建築面積 365.18㎡

延床面積 359.76㎡

敷地面積 2966.00㎡

建築年月日 平成13年3月15日

(平成15年一部増築)



萩市消防署紫福分遣所

TEL 0838-53-5119

FAX 0838-53-5120

所在地 萩市大字紫福3434番地1

建物構造 鉄骨造平屋建

建築面積 272.16㎡

延床面積 255.75㎡

敷地面積 2148.19㎡

建築年月日 平成14年3月8日



萩市消防署佐々並分遣所

TEL 0838-56-0119

FAX 0838-56-0128

所在地 萩市大字佐々並2662番地6

建物構造 鉄骨造平屋建

建築面積 369.62㎡

延床面積 365.98㎡

敷地面積 1778.14㎡

建築年月日 平成19年3月16日

<萩市一般会計当初予算と消防費当初予算>

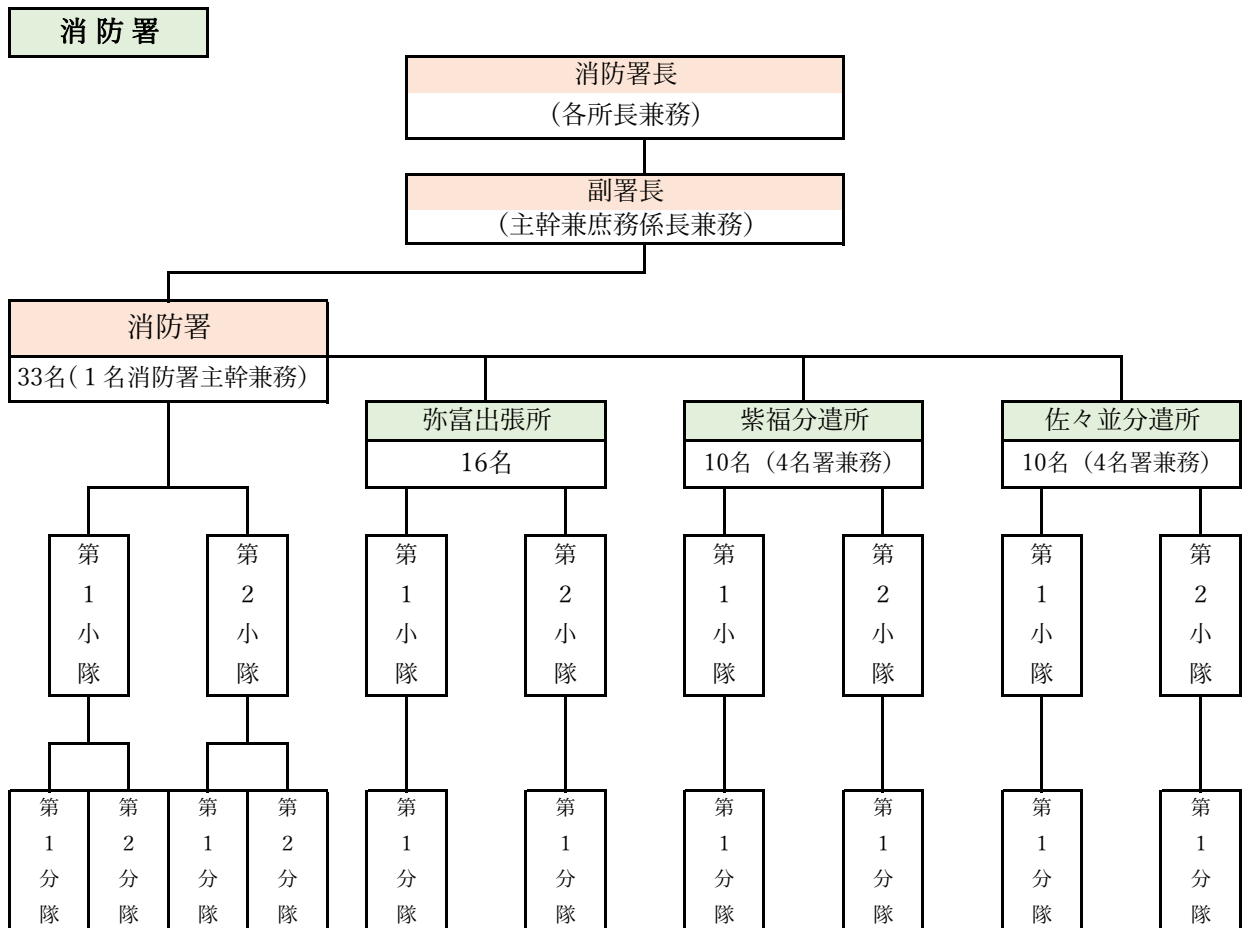
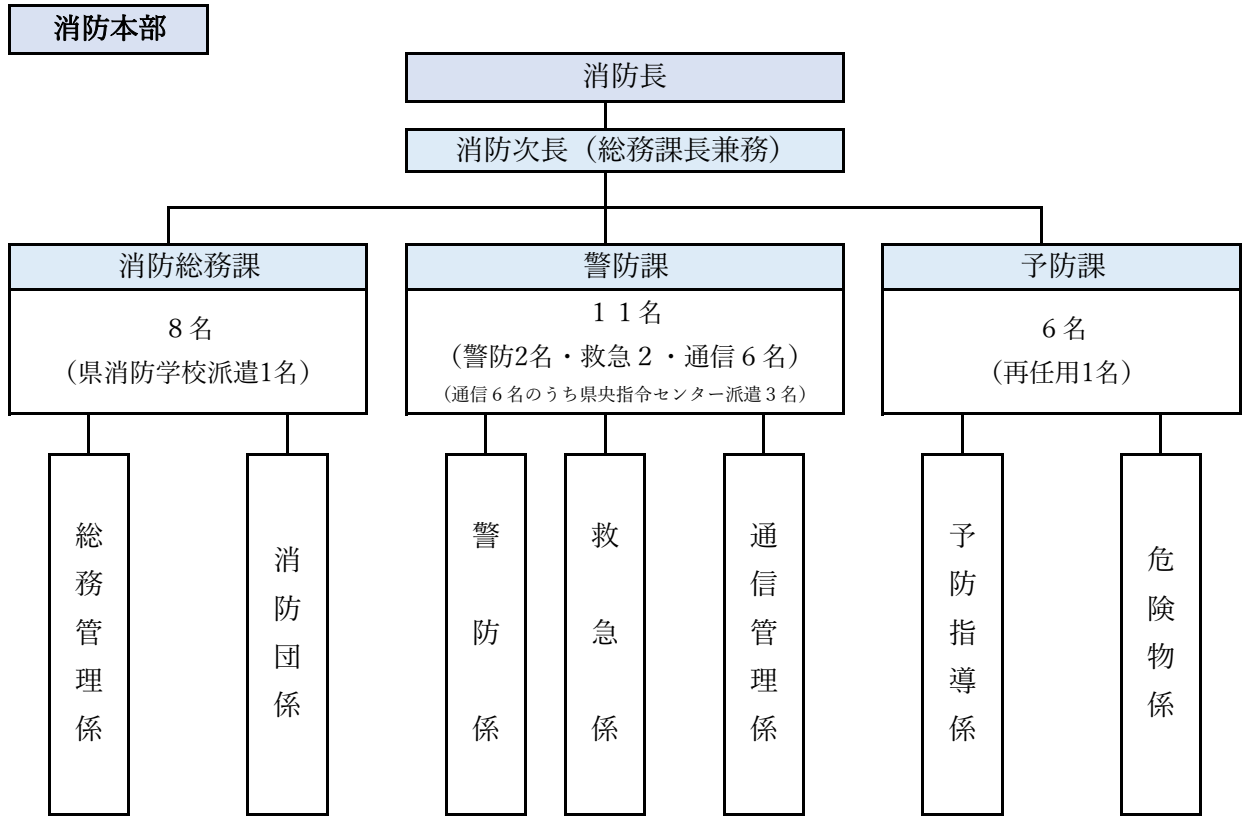
(単位：千円)

区分 年度	一般会計予算	消防費	内 訳			構成比 (%)
			常備消防費	非常備消防費	消防施設費	
令和7年度	31,036,000	1,742,991	1,093,989	164,984	400,396	5.6
令和6年度	30,822,000	1,899,159	1,478,384	165,851	253,924	6.2
令和5年度	29,900,000	1,945,361	1,184,189	171,714	213,315	6.5
令和4年度	29,880,000	1,472,490	774,440	176,433	318,258	4.9
令和3年度	29,880,000	1,558,580	763,067	180,097	264,536	5.2

注) 消防費は、水防費・災害対策費を含んだもの。

<消防本部組織図>

令和8年4月1日現在



〈消防職員の現況〉

令和8年4月1日現在

年齢	合計	うち女	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士
		性職員						
18歳	2							2
19歳	3							3
20歳	2							2
21歳	2							2
22歳	1							1
23歳	4	1						4
24歳	1							1
25歳	1							1
26歳	2							2
27歳	1							1
28歳	1							1
29歳	3					3		
30歳	2					1		1
31歳	1					1		
32歳	2					1		1
33歳	1					1		
34歳	2					2		
35歳	2					2		
36歳	4					4		
37歳	1					1		
38歳	3				1	2		
39歳	3	1				3		
40歳	0							
41歳	2				2			
42歳	1				1			
43歳	3				3			
44歳	6				6			
45歳	3				3			
46歳	3				3			
47歳	4				3	1		
48歳	4			1	3			
49歳	5			5				
50歳	4			4				
51歳	6			5	1			
52歳	2			2				
53歳	1			1				
54歳	0							
55歳	2			2				
56歳	1			1				
57歳	0							
58歳	2		1	1				
59歳	0							
60歳	1			1				
61歳	2			1			1	
うち再任用	0							
62歳	0							
うち再任用	0							
63歳	1							1
うち再任用	1							1
合計	97	2	1	24	26	22	1	23

【条例定数：103名】

平均年齢： 39.9

4 警 防 関 係

< 現有消防車両等 >

●萩市消防本部・萩市消防署

令和 8 年 4 月 1 日現在

車 両 名 称	用途等	メーカー	登録年月日	備考
萩 指 令 1	指 揮 指 令 車	三 菱	平成 30 年 12 月 7 日	
萩 指 令 2	指 令 広 報 車	スズキ	平成 29 年 2 月 16 日	
萩 指 令 3	指 令 広 報 車	マツダ	平成 28 年 3 月 10 日	
萩 指 令 4	指 令 広 報 車	日 産	令和 3 年 3 月 8 日	
萩 指 令 5	指 令 広 報 車	マツダ	平成 30 年 2 月 21 日	
萩 広 報 1	人 員 輸 送 車 広 報 車	トヨタ	平成 31 年 2 月 26 日	緊援隊登録
萩 資 機 材 1	資 機 材 運 搬 車	日野	令和 6 年 3 月 7 日	
萩 タ ン ク 1	水 槽 付 ポ ン プ 車	車 体：日野 ポンプ：日本機械工業	平成 26 年 2 月 17 日	A-2 級
萩 ポ ン プ 1	ポ ン プ 車	車 体：日野 ポンプ：日本機械工業	令和 3 年 2 月 25 日	A-2 級 緊援隊登録
萩 梯 子 1	3 5 m 級 は し ご 車	車 体：日野 艀 装：モリタ	平成 21 年 11 月 10 日	
萩 化 学 1	化 学 車	車 体：日野 ポンプ：日本機械工業	令和 5 年 3 月 17 日	A-2 級 緊援隊登録
萩 救 助 1	救 助 工 作 車	車 体：日野 艀 装：モリタ	令和 7 年 10 月 27 日	
萩 積 1	積 載 車	いすゞ	令和 5 年 3 月 9 日	
萩 救 急 1	高 規 格 救 急 車	トヨタ	令和元年 12 月 16 日	
萩 救 急 2	高 規 格 救 急 車	日 産	平成 27 年 2 月 26 日	
萩 救 急 3	高 規 格 救 急 車	トヨタ	平成 29 年 12 月 14 日	
救 命 ボ ー ト	救 難 ・ 監 視 船	船 体：アキレス 船外機：ヤマハ	平成 30 年 3 月 20 日	

●萩市消防署弥富出張所

車 両 名 称	用途等	メーカー	登録年月日	備考
萩 ポ ン プ 2	ポ ン プ 車	車 体：日野 ポンプ：日本機械工業	令和 3 年 12 月 23 日	A-2 級
萩 積 2	積 載 車	日 産	令和 3 年 3 月 5 日	
萩 救 急 4	高 規 格 救 急 車	トヨタ	令和 4 年 3 月 3 日	緊援隊登録

●萩市消防署紫福分遣所

車 両 名 称	用途等	メーカー	登録年月日	備考
萩 救 急 5	高規格救急車	トヨタ	平成 28 年 3 月 1 日	

●萩市消防署佐々並分遣所

車 両 名 称	用途等	メーカー	登録年月日	備考
萩 救 急 6	高規格救急車	日産	令和 3 年 2 月 25 日	緊援隊登録

<消防水利>

令和 8 年 4 月 1 日現在

水利 地域		消火栓		防火水槽（基）								受水槽
		公設	私設	20～40 m ³		40～60 m ³		60～100 m ³		100 m ³ 以上		
				公設	私設	公設	私設	公設	私設	公設	私設	
萩市	萩	799	59	3		100	17	5	1	2		15
	川上		4	6		29	2	1				1
	田万川	89		9		43	1					1
	むつみ	131		1		40						
	須佐	58				42						
	旭	30		4		35		1				
	福栄	56			1	59						1
阿武町		126		1		51						
合計		1289	63	24	1	399	20	7	1	2	0	18

5 火災関係

<火災概要>

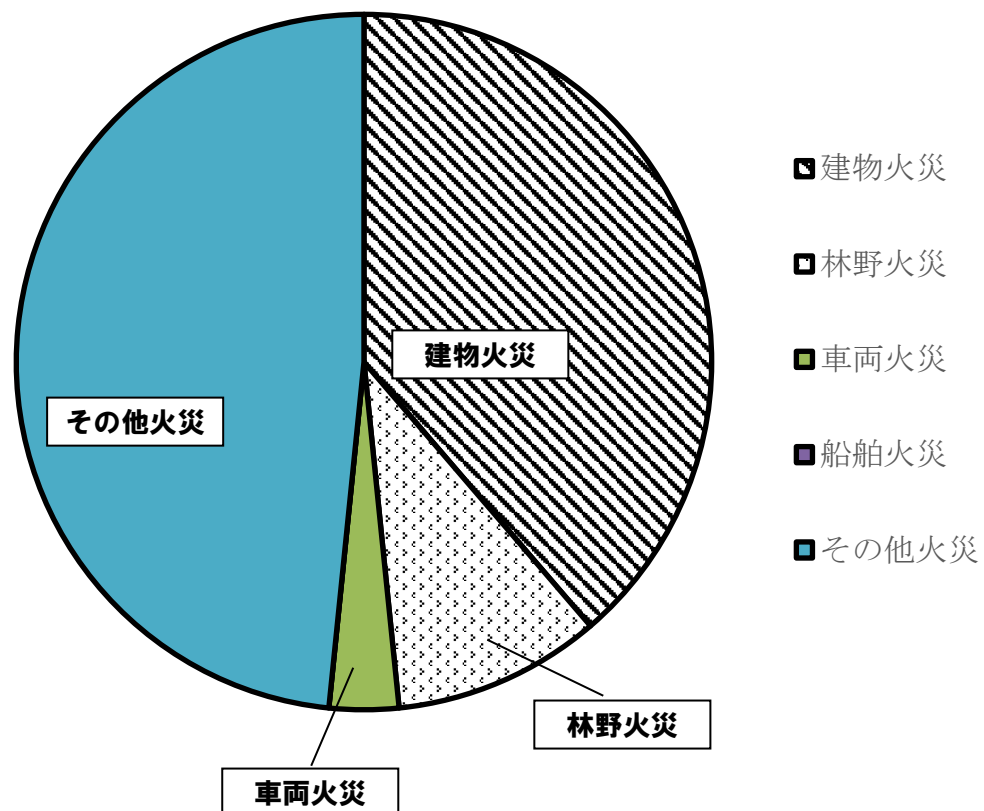
令和7年中の出火件数は31件（前年26件）で、月平均では2.58件の割合で火災が発生、火災種別ごとの件数は、建物火災が12件（前年9件）、林野火災が3件（前年0件）、車両火災が1件（前年0件）、船舶火災が0件（前年0件）、その他火災が15件（前年17件）となっている。損害額は35,488千円で、前年の48,148千円に比べると12,660千円の減となっている。主な出火原因は、たき火（火入れ）が8件、放火・放火の疑いが5件、軌道敷のブレーキ火花が3件となっている。過去5年の統計で見ると、出火原因は、火入れ（たき火）によるものが特に多い。

<令和7年の火災発生状況>

●火災発生件数と損害額

区分	建物火災	林野火災	車両火災	船舶火災	その他火災	合計
火災発生件数	12	3	1	0	15	31

区分	建物損害	林野損害	車両損害	船舶損害	その他損害	合計
損害額 (千円)	32,550	6	9	0	2,923	35,488



●火災発生件数（月別）

（単位：件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	種別 合計
建物	2	2	1	1	1	1	1				2	1	12
林野			3										3
車両											1		1
船舶													0
その他		4	2	1	2	1	3	2					15
月別 合計	2	6	6	2	3	2	4	2	0	0	3	1	31

●地域別火災発生件数

（単位：件）

	萩地域	川上地域	田万川地域	むつみ地域	須佐地域	旭地域	福栄地域	阿武町	種別 合計
建物	4		3	1	1	1	1	1	12
林野				1	1	1			3
車両						1			1
船舶									0
その他	9		3		1		1	1	15
地域別 合計	13	0	6	2	3	3	2	2	31

●建物焼損棟数（月別）

（単位：棟）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
全焼	2	1	1		1		1				1		7
半焼		1											1
部分焼	1	3		1	1	2							8
ぼや			1								1	1	3
合計	3	5	2	1	2	2	1				2	1	19

●焼損面積（月別）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
床面積 (㎡)	198.29	311.18	40.82		25.00		55.81				35.97		667.07
表面積 (㎡)		32.84		0.25	8.28	1.33	79.80					0.135	122.64
林野 (a)	0.75		4.59										5.34

●り災世帯・り災人員（月別）

（単位：世帯、人）

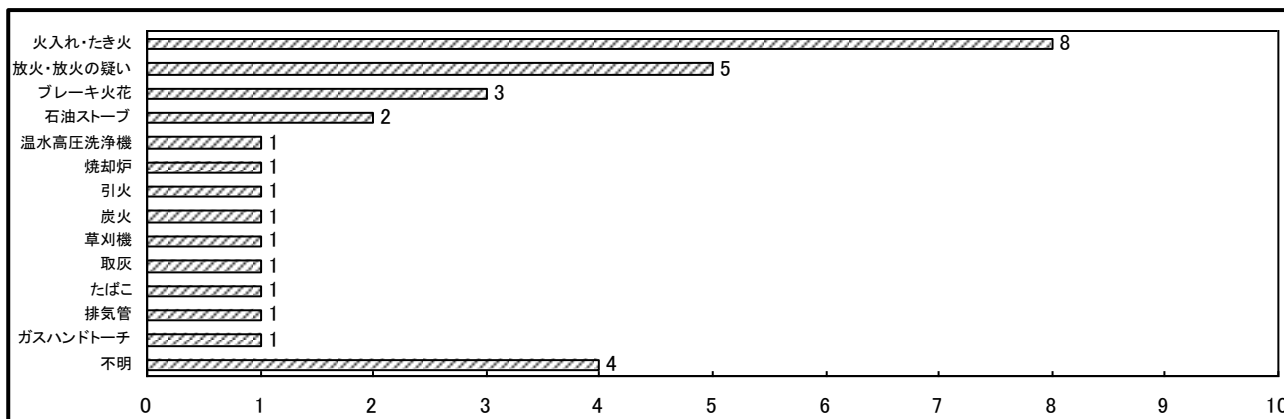
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
世帯	2	3		1	1	1	3				1	1	13
人員	3	4		1	1	4	5				1	1	20

●損害額（月別）

（単位：千円）

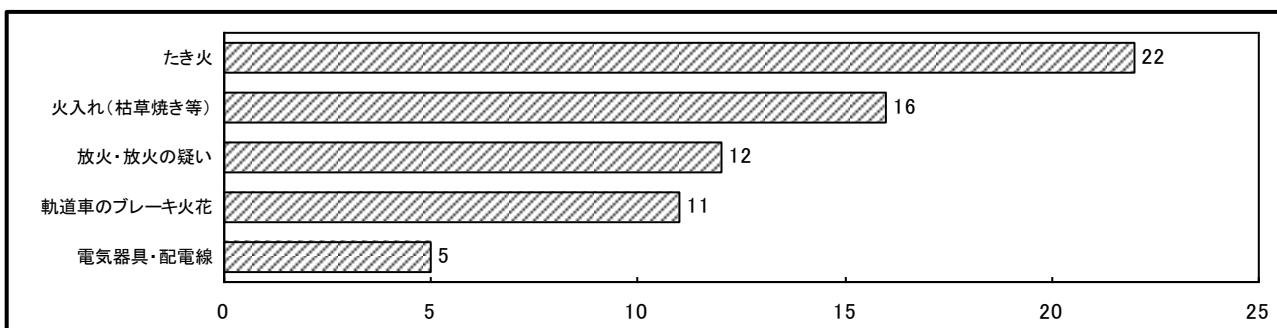
	建物			林野	車両	船舶	その他	月別 合計
	建物損害	内容物	小計					
1月	9,948	47	9,995					9,995
2月	14,722	3,422	18,144				2,911	21,055
3月	375	120	495	6				501
4月		2	2					2
5月	954	58	1,012					1,012
6月	2	27	29					29
7月	1,259	624	1,883					1,883
8月							12	12
9月								
10月								
11月	988	2	990		9			999
12月								
合計	28,248	4,302	32,550	6	9	0	2,923	35,488

●火災原因別出火件数



●過去5年の主な出火原因別出火件数

(令和3年～令和7年)



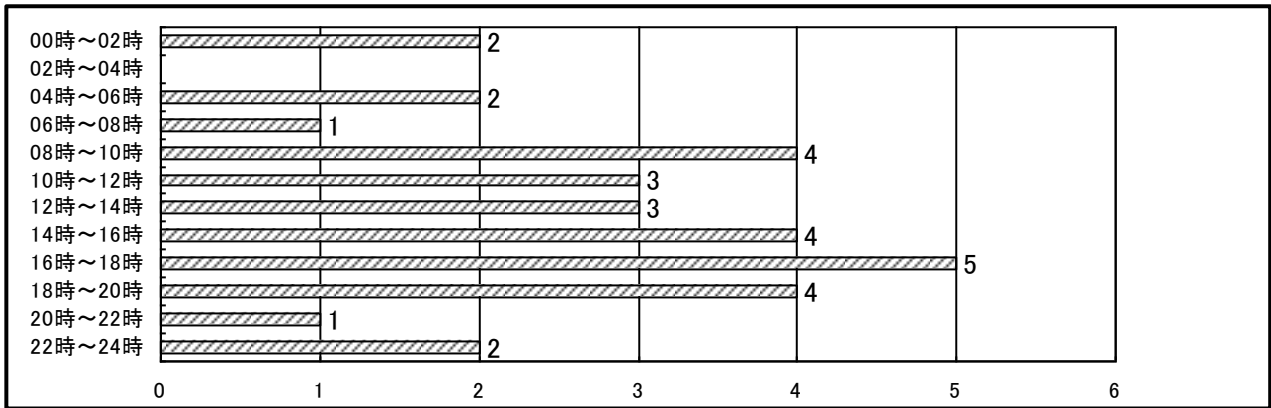
●過去5年の火災状況

(令和3年～令和7年)

火災件数	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	前年比増減
火災件数	34	28	26	26	31	5
建物火災	16	11	9	11	12	1
林野火災	7	4	0	2	3	1
車両火災	0	0	0	1	1	0
船舶火災	0	2	0	0	0	0
その他火災	11	11	17	12	15	3
損害額 (千円)	115,269	53,278	57,312	48,148	35,488	▼12,660
建築焼損床面積 (㎡)	1,293	1,155	1,148	1,079	667	▼412
建築焼損表面積 (㎡)	143	47	45	91	123	32
林野焼損面積 (a)	19	8	7	0	5	5
焼損棟数	27	25	17	17	19	2
罹災世帯	16	17	6	15	13	▼2
罹災人員	32	33	11	23	20	▼3
火災による死者	2	1	1	1	1	0
火災による負傷者	3	4	2	5	3	▼2

●時間別火災発生件数

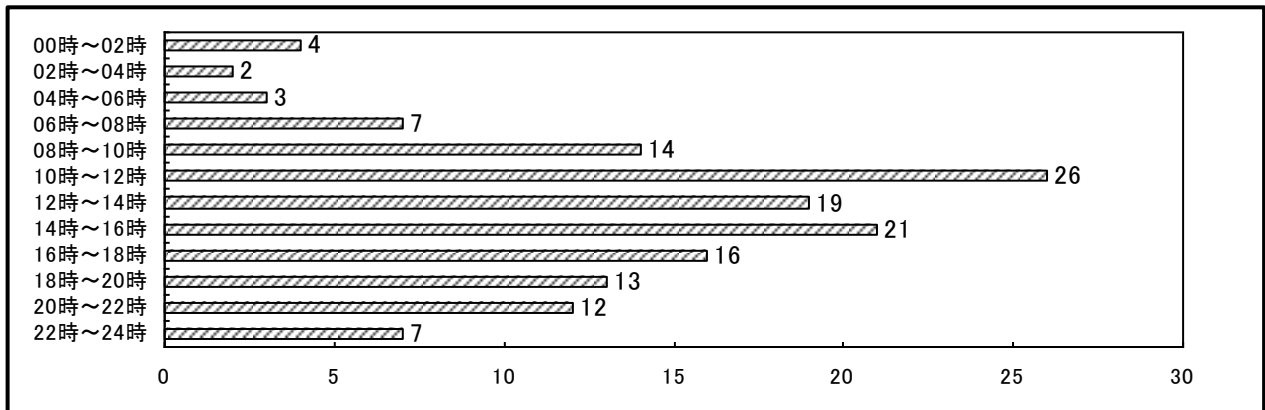
(単位：件)



●過去5年の時間別火災発生件数

(令和3年～令和7年)

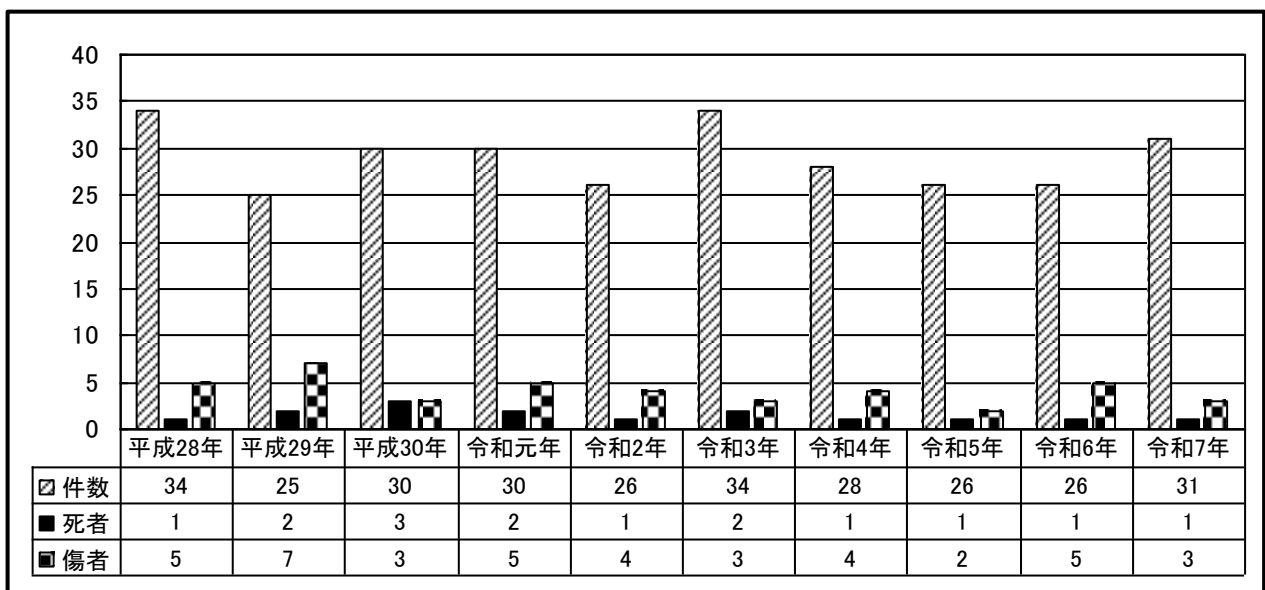
(単位：件)



●過去10年の火災件数と死傷者数

(平成28年～令和7年)

(単位：件、人)



6 救 急 関 係

<救急概要>

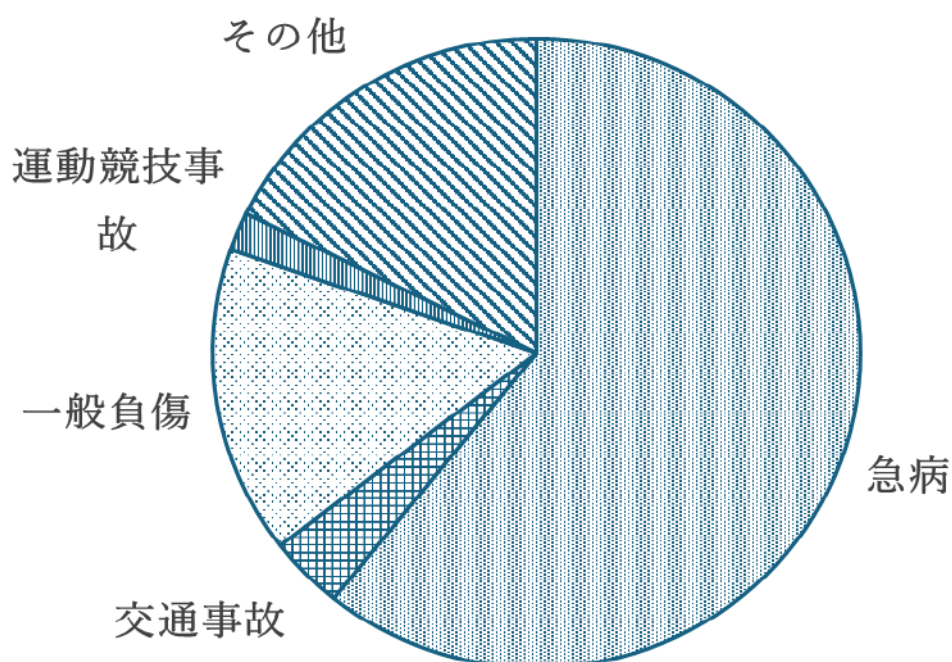
令和7年中の救急出動件数及び搬送人員は、それぞれ3,588件、3,413人で、令和6年の3,500件、3,288人に比べ、88件、125人の増加となっています。

事故種別ごとの出動件数は、急病2,180件（前年2,146件）、交通事故135件（前年129件）、一般負傷567件（前年533件）、その他（転院搬送等）635件（前年614件）となっており、この4種で全体の約98%を占めています。

傷病程度別にみると、死亡57人（前年56人）、重症633人（前年544人）、中等症1,365人（前年1,349人）、軽症1,358人（前年1,339人）となっています。

令和7年中の搬送人員に占める高齢者（65歳以上）の割合は、約79%となっており、今後も高齢者の占める割合が増加すると考えられます。これからも、救急車の適正利用と応急手当の普及啓発を進めていくところです。

<救急出動件数と種別の割合>



	急病	交通事故	一般負傷	運動競技事故等	その他	合計
出動件数	2,180	135	567	71	635	3,588
割合	60.8%	3.8%	15.8%	2.0%	17.7%	

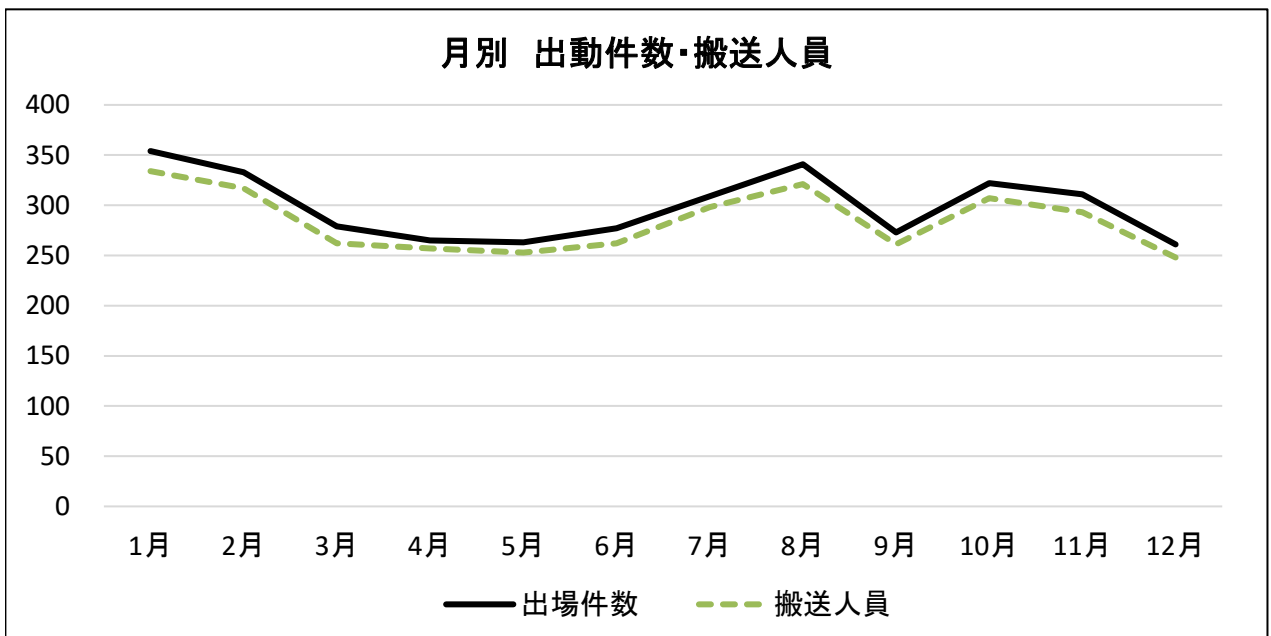
小数第2位四捨五入

※ 運動競技事故等とは、火災、自然災害、水難、労働災害、加害及び自損行為を含む。

<令和7年月別救急出動件数と搬送人員>

(単位：件、人)

区 分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
火 災	出動件数	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	1	0	6
	搬送人員	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
自然災害	出動件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	搬送人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水 難	出動件数	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	4
	搬送人員	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
交 通	出動件数	12	16	9	9	12	8	16	11	8	18	11	5	135
	搬送人員	12	15	10	9	13	6	14	10	9	19	13	5	135
労働災害	出動件数	0	5	1	3	1	0	2	4	2	0	0	3	21
	搬送人員	0	5	1	3	1	0	2	4	2	0	0	3	21
運動競技	出動件数	0	0	0	0	1	3	0	3	3	1	3	1	15
	搬送人員	0	0	0	0	1	3	0	3	3	1	3	1	15
一般負傷	出動件数	44	47	45	45	40	35	51	36	35	65	64	60	567
	搬送人員	41	44	42	43	39	32	50	34	31	63	61	58	538
加 害	出動件数	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	5
	搬送人員	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	5
自損行為	出動件数	0	0	3	4	0	3	2	1	2	2	3	0	20
	搬送人員	0	0	1	3	0	3	1	1	1	2	1	0	13
急 病	出動件数	239	215	156	148	164	177	188	218	180	179	172	144	2,180
	搬送人員	223	203	145	144	154	167	181	201	173	168	161	133	2,053
転院搬送	出動件数	57	49	61	54	45	51	50	66	41	53	56	46	629
	搬送人員	57	49	61	54	45	51	50	66	41	52	54	46	626
その他	出動件数	1	0	1	1	0	0	0	0	0	2	1	0	6
	搬送人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	出動件数	354	333	279	265	263	277	309	341	273	322	311	261	3,588
	搬送人員	334	317	262	257	253	262	298	321	261	307	293	248	3,413



<令和7年地域別救急状況>

(単位：件、人)

事故種別		火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	合計
萩地域	出動件数	0	0	3	100	15	14	375	5	11	1,501	600	5	2,629
	搬送人員	0	0	2	97	15	14	354	5	9	1,413	597	0	2,506
川上地域	出動件数	0	0	0	2	1	0	8	0	2	40	3	0	56
	搬送人員	0	0	0	2	1	0	8	0	1	37	3	0	52
田万川地域	出動件数	3	0	0	4	0	0	55	0	0	167	4	1	234
	搬送人員	3	0	0	5	0	0	52	0	0	160	4	0	224
むつみ地域	出動件数	1	0	0	2	1	1	22	0	2	84	4	0	117
	搬送人員	1	0	0	2	1	1	21	0	2	83	4	0	115
須佐地域	出動件数	0	0	0	5	1	0	35	0	4	110	10	0	165
	搬送人員	0	0	0	6	1	0	34	0	0	103	10	0	154
旭地域	出動件数	1	0	0	13	2	0	13	0	0	72	0	0	101
	搬送人員	0	0	0	13	2	0	13	0	0	64	0	0	92
福栄地域	出動件数	0	0	0	2	0	0	21	0	1	83	4	0	111
	搬送人員	0	0	0	2	0	0	20	0	1	77	4	0	104
阿武町	出動件数	1	0	1	7	1	0	38	0	0	123	4	0	175
	搬送人員	0	0	1	8	1	0	36	0	0	116	4	0	166
その他地域	出動件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	搬送人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	出動件数	6	0	4	135	21	15	567	5	20	2,180	629	6	3,588
	搬送人員	4	0	3	135	21	15	538	5	13	2,053	626	0	3,413

<令和7年傷病程度別搬送人員>

(単位：人)

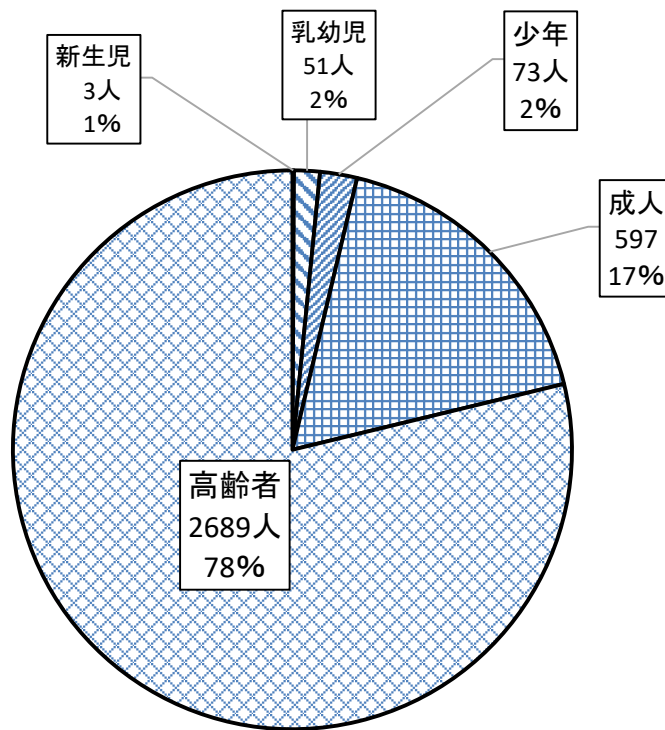
	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
火災	0	1	1	2	0	4
自然災害	0	0	0	0	0	0
水難	2	0	0	1	0	3
交通	2	18	28	87	0	135
労働災害	0	2	5	14	0	21
運動競技	0	1	0	14	0	15
一般負傷	10	72	217	239	0	538
加害	0	1	2	2	0	5
自損行為	4	3	2	4	0	13
急病	38	278	779	958	0	2,053
転院搬送	1	257	331	37	0	626
その他	0	0	0	0	0	0
合計	57	633	1,365	1,358	0	3,413

備考 死亡：初診時において死亡が確認されたもの、重症：3週間以上入院加療を必要とするもの
 中等症：重症または軽症以外のもの、軽症：入院加療を必要としないもの
 その他：いずれにも分類不能なもの。

<令和7年事故種別・年齢区分別搬送人員>

(単位：人)

事故種別 年齢区分	事故種別													合計
	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他		
新生児 生後28日未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	
乳幼児 生後28日以上 満7歳未満	0	0	0	2	0	0	10	0	0	35	4	0	51	
少年 満7歳以上 満18歳未満	1	0	0	10	0	11	12	1	0	32	6	0	73	
成人 満18歳以上 満65歳未満	1	0	1	60	11	3	66	2	11	349	93	0	597	
高齢者 満65歳以上	2	0	2	63	10	1	450	2	2	1,637	520	0	2,689	
合計	4	0	3	135	21	15	538	5	13	2,053	626	0	3,413	



<令和7年医療機関別搬送人員>

(単位：人)

救急告示医療機関				その他の医療機関				計				その他の場所	合計		
国立・公立	公的	私的		国立・公立	公的	私的		国立・公立	公的	私的					
		病院	診療所			病院	診療所			病院	診療所				
1,361	375	1,644	0	3,380	3	0	10	20	33	1,364	375	1,654	20	0	3,413

<過去5年の管轄内・管轄外搬送状況>

(単位：人)

年別	種別	搬送	火災	自然	水難	交通	労働	運動	一般	加害	自損	急病	転院	医師	資器材	その他
		人員		災害			災害	競技	負傷		行為		搬送	搬送	搬送	
令和7年	管轄内	2,851	4	0	3	125	18	15	460	5	13	1,811	397	0	0	0
	管轄外	562	0	0	0	10	3	0	77	0	0	243	229	0	0	0
	計	3,413	4	0	3	135	21	15	538	5	13	2,053	626	0	0	0
令和6年	管轄内	2,776	3	0	5	122	25	10	451	4	16	1,740	400	0	0	0
	管轄外	512	1	0	0	8	4	1	54	0	0	258	186	0	0	0
	計	3,288	4	0	5	130	29	11	505	4	16	1,998	586	0	0	0
令和5年	管轄内	2,772	2	3	0	124	22	12	499	3	11	1,754	342	0	0	0
	管轄外	494	0	0	0	8	3	0	59	0	1	217	206	0	0	0
	計	3,266	2	3	0	132	25	12	558	3	12	1,971	548	0	0	0
令和4年	管轄内	2,555	2	0	4	138	10	15	428	4	9	1,606	339	0	0	0
	管轄外	533	0	0	0	9	1	0	54	2	1	288	178	0	0	0
	計	3,088	2	0	4	147	11	15	482	6	10	1,894	517	0	0	0
令和3年	管轄内	2,466	2	0	11	106	20	11	432	4	9	1,551	318	0	0	2
	管轄外	427	1	0	0	9	2	0	56	0	0	221	138	0	0	0
	計	2,893	3	0	11	115	22	11	488	4	9	1,772	456	0	0	2

<過去5年のドクターヘリ出動実績>

地域	年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
萩地域	現場出動	0	3	5	5	5
	転院搬送	18	40	37	36	27
川上地域	現場出動	1	1	1	0	0
	転院搬送	0	0	0	0	0
田万川地域	現場出動	1	1	2	2	1
	転院搬送	0	0	0	1	0
むつみ地域	現場出動	0	1	0	1	1
	転院搬送	0	0	0	0	0
須佐地域	現場出動	0	1	3	3	2
	転院搬送	0	0	0	0	0
旭地域	現場出動	2	2	0	2	1
	転院搬送	0	0	0	0	0
福栄地域	現場出動	2	0	1	1	0
	転院搬送	0	0	0	0	0
阿武町	現場出動	1	1	2	3	0
	転院搬送	0	0	0	0	0
合計		25	50	51	54	37

<過去5年の救急状況>

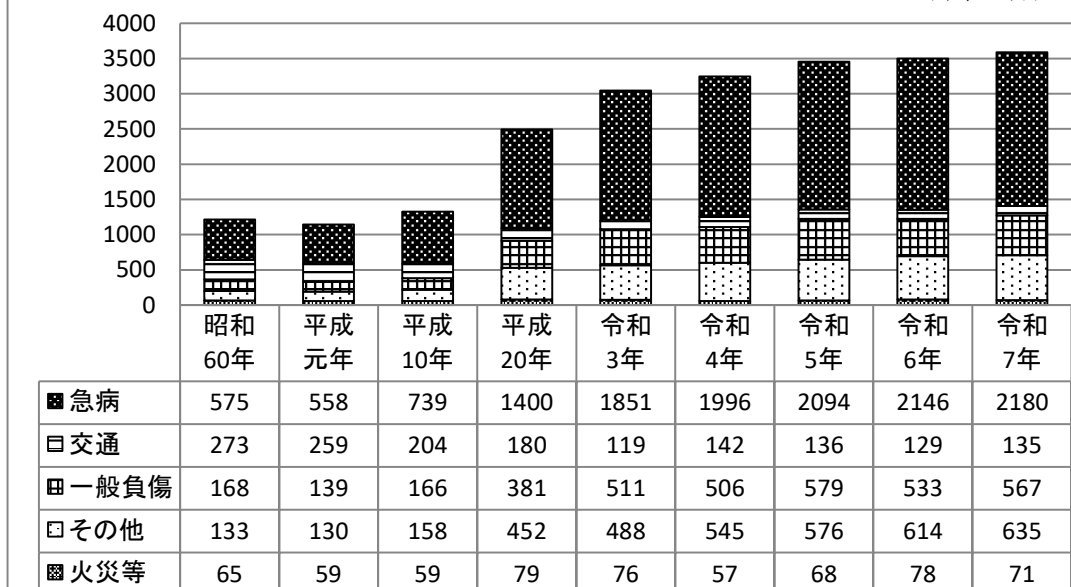
(令和3年～令和7年)

(単位：件、人)

		令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	前年比増減
出 動 件 数		3,045	3,246	3,453	3,500	3,588	88
事 故 種 別	火災	5	1	5	3	6	3
	自然災害	0	0	3	0	0	0
	水難	16	8	1	6	4	▲2
	交通	119	142	136	129	135	6
	労働災害	22	11	26	29	21	▲8
	運動競技	11	14	12	12	15	3
	一般負傷	511	506	579	533	567	34
	加害	5	6	3	5	5	0
	自損行為	17	17	18	23	20	▲3
	急病	1,851	1,996	2,094	2,146	2,180	34
	転院搬送	459	515	551	590	629	39
	その他	29	30	25	24	6	▲18
搬 送 件 数		2,886	3,069	3,250	3,274	3,398	124
不 搬 送 件 数		159	177	203	226	190	▲36
医 師 搬 送 件 数		0	0	1	0	1	1
器 具 搬 送 件 数		5	1	0	0	0	0
搬 送 人 員 数		2,893	3,088	3,266	3,288	3,413	125

救急出動状況の推移

(単位：件)



<心肺蘇生法及び普通救命講習等受講状況>

●心肺蘇生法（講習時間：1時間程度～3時間未満）

内容：心肺蘇生法の基本、講習に時間がとれない方が応急手当の方法を学ぶ

実施年	団体数	指導件数	受講者数
令和7年	49団体	49件	1,193名
令和6年	55団体	56件	1,451名
令和5年	55団体	58件	1,764名
令和4年	45団体	49件	1,012名
令和3年	31団体	37件	896名
過去5年間	235団体	249件	6,316名

●普通救命講習Ⅰ（講習時間：3時間）

内容：心肺蘇生法（成人）や異物除去の方法、AEDの実技、止血法を学ぶ

実施年	団体数	指導件数	受講者数
令和7年	13団体	14件	178名
令和6年	14団体	14件	195名
令和5年	18団体	18件	261名
令和4年	9団体	9件	90名
令和3年	12団体	14件	111名
過去5年間	66団体	69件	835名

●普通救命講習Ⅱ（講習時間：4時間）

内容：心肺蘇生法（成人）や異物除去の方法、AEDの実技、止血法を学ぶ

心肺蘇生法に関する知識の確認（筆記試験）、心肺蘇生法に関する実技の評価（実技試験）を実施（修了後に修了証を発行）

実施年	団体数	指導件数	受講者数
令和7年	0団体	0件	0名
令和6年	0団体	0件	0名
令和5年	0団体	0件	0名
令和4年	0団体	0件	0名
令和3年	1団体	3件	19名
過去5年間	1団体	3件	19名

●普通救命講習Ⅲ（講習時間：3時間）

内容：心肺蘇生法（小児・乳児・新生児に対する方法）や異物除去の方法、AEDの実技・止血法を学ぶ（修了後に修了証を発行）

実施年	団体数	指導件数	受講者数
令和7年	3団体	3件	22名
令和6年	3団体	3件	33名
令和5年	1団体	1件	7名
令和4年	2団体	2件	13名
令和3年	1団体	1件	4名
過去5年間	10団体	10件	79名

●上級救命講習（講習時間：8時間）

内容：心肺蘇生法（成人・小児・乳児・新生児に対する方法・一人法・二人法）や異物除去の方法、AEDの実技、止血法、傷病者に対する保温や搬送の方法、包帯法、やけどの手当を学ぶ。心肺蘇生法に関する知識の確認（筆記試験）心肺蘇生法に関する実技の評価（実技試験）を実施（修了後に修了証を発行）

実施年	団体数	指導件数	受講者数
令和7年	1団体	1件	4名
令和6年	3団体	3件	8名
令和5年	2団体	2件	8名
令和4年	0団体	0件	0名
令和3年	4団体	4件	12名
過去5年間	10団体	10件	32名

7. 救助関係

救助概要

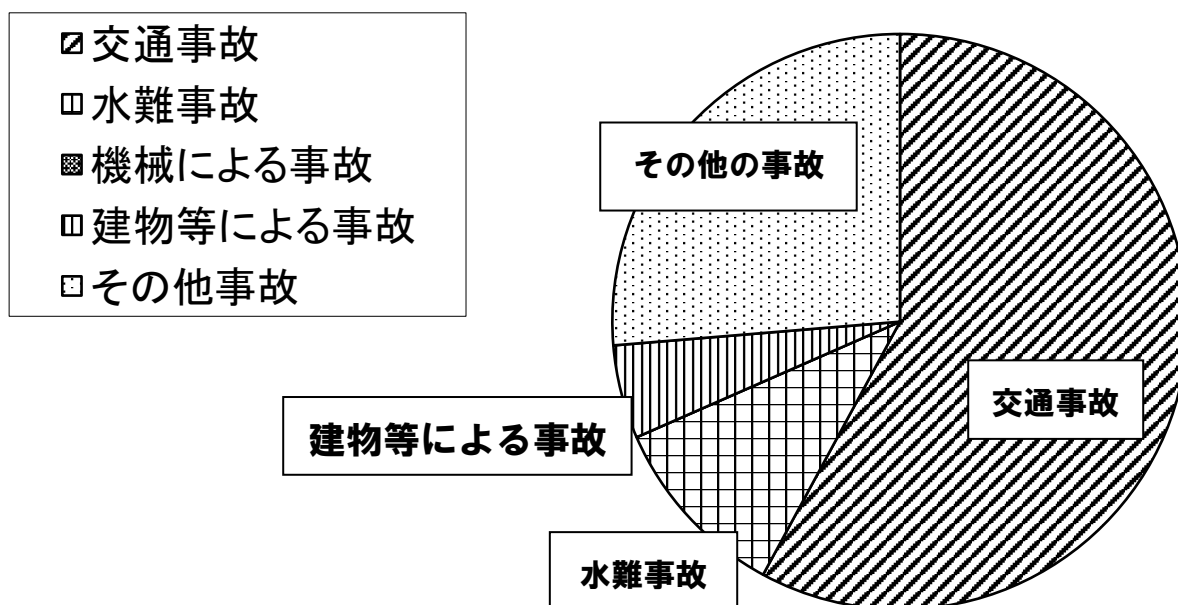
令和7年中の救助出動件数及び救助人員数はそれぞれ19件・14人で、令和6年中の32件・18人に比べると、件数が13件減少し、救助人員は4人減少している。

事故種別ごとの件数は、交通事故11件（前年14件）、水難事故2件（前年6件）、機械による事故0件（前年0件）、建物等による事故1件（前年0件）、その他の事故5件（前年3件）となる。

事故種別で救助件数を見てみると、例年のことながら交通事故の割合が高い。中でも高齢者の運転操作の誤りによる事故が増加している。水難事故や、その他の事故に含まれている水辺、海岸沿いでの負傷事故も多く発生しており、釣り場等での注意は必要である。

救助出動件数と割合

	交通事故	水難事故	機械事故	建物事故	その他事故	合計
出動件数	11	2	0	1	5	19
割合	57.9%	10.5%	0%	5.3%	26.3%	小数第2位四捨五入



<令和7年地域別救助活動状況>

(単位：件、人)

地域別	事故種別	火災		交通 事故	水難 事故	風水害 等自然 事 故	機械等 による 事 故	建物等 による 事 故	ガス及 び酸欠 事 故	破裂 事故	その他 の事故	合計
		建物	建物以外									
萩 地域	出動件数			9	2			1			1	13
	救助人員			8	2			0			0	10
川上 地域	出動件数											0
	救助人員											0
田万川 地域	出動件数			1							2	3
	救助人員			0							1	1
むつみ 地域	出動件数											0
	救助人員											0
須佐 地域	出動件数			1							1	2
	救助人員			1							1	2
旭 地域	出動件数											0
	救助人員											0
福栄 地域	出動件数											0
	救助人員											0
阿武町	出動件数										1	1
	救助人員										1	1
合計	出動件数	0	0	11	2	0	0	1	0	0	5	19
	救助人員	0	0	9	2	0	0	0	0	0	3	14

<過去5年の救助活動状況>

(令和3年～令和7年)

(単位：件、人)

地域別	事故種別	火災		交通 事故	水難 事故	風水害 等自然 事 故	機械等 による 事 故	建物等 による 事 故	ガス及 び酸欠 事 故	破裂 事故	その他 の事故	合計
		建物	建物以外									
令和7年	出動件数			11	2			1			5	19
	活動件数			7	2			0			3	12
	救助人員			9	2			0			3	14
令和6年	出動件数			14	6		1	3			8	32
	活動件数			6	3		0	1			5	15
	救助人員			9	3		0	1			5	18
令和5年	出動件数			22	1						6	29
	活動件数			14	0						3	17
	救助人員			17	0						3	20
令和4年	出動件数			6	2						10	18
	活動件数			1	1						7	9
	救助人員			1	1						7	9
令和3年	出動件数			9	10			3			6	28
	活動件数			6	7			3			6	22
	救助人員			7	7			2			6	22
合計	出動件数	0	0	62	21	0	1	7	0	0	35	126
	活動件数	0	0	34	13	0	0	4	0	0	24	75
	救助人員	0	0	43	13	0	0	3	0	0	24	83

<救助活動用機械器具等の保有状況>

区分	名称	数量
一般救助器具	かぎ付きはしご	3
	三連はしご	6
	金属製折りたたみはしご	2
	ワイヤはしご	1
	空気式救助マット	1
	救命索発射銃	1
	サーバイバースリング	3
	救助用縛帯	6
	平坦架	1
重量物排除用器具	油圧ジャッキ	3
	油圧スプレッダー	5
	可搬ウィンチ	6
	ワイヤーロープ	41
	マンホール救助器具	1
	マット型空気ジャッキ	1
	チェーンブロック	0
切断用器具	油圧切断器	3
	エンジンカッター	7
	ガス溶断器	1
	鉄線カッター	7
	空気鋸	0
	空気切断機	0
	チェーンソー	7
	鉄筋切チェーンソー	1
器破壊用器具	万能斧	17
	ハンマー	11
	携帯用コンクリート破壊器具	2
	削岩機	1
器測定用器具	可燃性ガス測定器	7
	有毒ガス測定器	1
	放射線測定器	16
器用検査器具	簡易画像探査機	1
器用除染器具	除染シャワー	1
器用救助器具	バスケット担架	5

区分	名称	数量
呼吸保護用器具	空気呼吸器	37
	空気ボンベ	63
	酸素呼吸器	4
	簡易呼吸器	2
	防塵マスク	25
	送排風機	2
	隊員保護用器具	耐電手袋
耐電衣		2
耐電ズボン		2
耐電長靴		15
墜落制止用器具		19
防塵メガネ		23
携帯警報器		17
防毒マスク		26
化学防護服（陽圧式除く）		27
陽圧式化学防護服		6
耐熱服	6	
水難救助用器具	潜水器具一式	11
	流水救助器具一式	22
	救命胴衣	59
	水中ライト	11
	救命浮環	16
	浮標	1
	救命ボート	4
	船外機	1
	その他の救助用器具	投光器
携帯投光機		26
携帯拡声器		10
携帯無線機		23
応急処置セット		1
車両移動器具		0
その他の携帯救助工具		3
緩降機		2
発電機		15

8 予 防 関 係

＜防火対象物数（消防法第17条第1項該当）及び査察実施状況＞

令和8年4月1日現在

令別表項目別		市町別	防火対象物数（法第17条第1項該当）			査察実施件数		
			萩市	阿武町	計	萩市	阿武町	計
1	イ	劇場・映画館	2	0	2	1	0	1
	ロ	公会堂・集会場	17	4	21	19	0	19
2	イ	キャバレー等	0	0	0	0	0	0
	ロ	遊技場・ダンスホール	6	0	6	1	0	1
	ハ	性風俗関連店舗等	0	0	0	0	0	0
	ニ	カラオケ店等	0	0	0	0	0	0
3	イ	料理店等	2	0	2	0	0	0
	ロ	飲食店	97	2	99	0	0	0
4		百貨店・店舗等	83	4	87	10	0	10
5	イ	旅館・ホテル	140	5	145	24	0	24
	ロ	共同住宅・寄宿舎等	331	3	334	1	0	1
6	イ	病院・診療所等	41	2	43	6	0	6
	ロ	老人短期入所施設等	21	3	24	6	0	6
	ハ	老人デイサービスセンター等	77	4	81	8	0	8
	ニ	幼稚園・盲学校等	4	0	4	0	0	0
7		小・中・高等学校等	91	15	106	48	0	48
8		図書館・博物館等	12	0	12	0	0	0
9	イ	蒸気浴場等	0	0	0	0	0	0
	ロ	一般の公衆浴場	2	0	2	1	0	1
10		車両の停車場等	3	0	3	0	0	0
11		神社・寺院・教会等	80	7	87	0	0	0
12	イ	工場・作業場	232	15	247	7	0	7
	ロ	スタジオ	3	0	3	0	0	0
13	イ	自動車車庫・駐車場	15	1	16	0	0	0
	ロ	格納庫	0	0	0	0	0	0
14		倉庫	159	7	166	11	0	11
15		事務所等	261	19	280	36	0	36
16	イ	複合用途（特定用途を含む）	164	11	175	10	0	10
	ロ	複合用途（特定用途を含まない）	69	3	72	52	0	52
17		重要文化財	56	0	56	1	0	1
18		アーケード	1	0	1	0	0	0
合 計			1969	105	2074	242	0	242

<中高層建築物（4階以上）>

令和8年4月1日現在

市町別建物階数 令別表別項目			4階		5階		6階		7階		8階		9階		10階		計
			萩市	阿武町	萩市	阿武町	萩市	阿武町	萩市	阿武町	萩市	阿武町	萩市	阿武町	萩市	阿武町	
1	イ	劇場・映画館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ロ	公会堂・集会場	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
2	イ	キャバレー等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ロ	遊技場・ダンスホール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハ	性風俗関連店舗等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニ	カフェ店等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	イ	料理店等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ロ	飲食店	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4		百貨店・店舗等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	イ	旅館・ホテル	7	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	11
	ロ	共同住宅・寄宿舎等	39	0	4	0	1	0	0	0	1	0	2	0	1	0	48
6	イ	病院・診療所等	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
	ロ	老人短期入所施設等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハ	老人デイサービスセンター等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニ	幼稚園・盲学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7		小・中・高等学校等	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
8		図書館・博物館等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	イ	蒸気浴場等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ロ	一般の公衆浴場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10		車両の停車場等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11		神社・寺院・教会等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	イ	工場・作業場	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	ロ	スタジオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	イ	自動車庫・駐車場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ロ	格納庫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14		倉庫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15		事務所等	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
16	イ	複合用途（特定用途を含む）	7	0	2	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	12
	ロ	複合用途（特定用途を含まない）	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	7
17		重要文化財	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計			77	0	12	0	1	0	2	0	4	0	3	0	2	0	101

<講習会等実施状況>

(令和7年度)

内 容	実施回数	参加者数
防 火 講 習 会	5	140
甲種防火管理講習会	1	40
甲種防火管理再講習会	1	8

<危険物規制対象物>

令和8年4月1日現在

製造所等 市町	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所			合 計
		屋 内	屋 外 タ ン ク	屋 内 タ ン ク	地 下 タ ン ク	簡 易 タ ン ク	移 動 タ ン ク	屋 外	給 油	販 売 一 種 二 種	一 般	
萩 市	0	19	36	9	44	2	14	1	44	1	25	195
阿武町	0	2	1	1	0	0	0	0	3	0	0	7
計	0	21	37	10	44	2	14	1	47	1	25	202

<危険物製造所等の事務処理状況>

(令和7年度)

製造所等 事務内訳	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所			合 計	
		屋 内	屋 外 タ ン ク	屋 内 タ ン ク	地 下 タ ン ク	簡 易 タ ン ク	移 動 タ ン ク	屋 外	給 油	販 売 一 種 二 種	一 般		
許可	設置	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	1	4
	変更	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	3	6
完成 検査	設置	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	1	4
	変更	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	3	6
仮使用		0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	4
廃止届		0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	3
仮	貯蔵											1	
	取扱											1	

<危険物製造所等立入検査状況>

(令和7年度)

製造所等 市町	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所			合 計
		屋 内	屋 外 タ ン ク	屋 内 タ ン ク	地 下 タ ン ク	簡 易 タ ン ク	移 動 タ ン ク	屋 外	給 油	販 売 一 種 二 種	一 般	
萩 市	0	19	42	9	44	2	17	1	48	1	31	214
阿武町	0	2	1	1	0	0	0	0	3	0	0	7
計	0	21	43	10	44	2	17	1	51	1	31	221

9 消防団関係

<萩市消防団組織表>

令和8年4月1日現在

団名	団長名	副団長名	方面団名	分団名	人数	(女性団員)
萩市消防団	総括団長 吉村辰市	総括副団長 丸田勘次	中央方面団長 (兼団本部長) 藤村 治	中央方面団本部	12名	
				明倫第1分団	19名	7名
				明倫第2分団	19名	1名
				明倫第3分団	16名	
				椿東第1分団	21名	
				椿東第2分団	16名	1名
				新川分団	15名	1名
				越ヶ浜分団	21名	1名
				椿分団	20名	
				山田第1分団	16名	2名
				山田第2分団	26名	3名
				木間分団	16名	
				三見第1分団	15名	
				三見第2分団	14名	1名
				三見第3分団	21名	
				大井第1分団	16名	
				大井第2分団	15名	1名
				大島分団	37名	
				相島分団	13名	
			見島分団	46名		
			小計	394名	18名	
			川上方面団長 金子 和夫	川上方面団本部	20名	6名
				川上第1分団	8名	
				川上第2分団	8名	
				川上第3分団	8名	
				小計	44名	6名
			田万川方面団長 大浴 康司	田万川方面団本部	13名	
				田万川第1分団	11名	
				田万川第2分団	13名	
				田万川第3分団	10名	
				田万川第4分団	15名	
				田万川第5分団	16名	
				田万川第6分団	11名	
				田万川第7分団	13名	
				田万川第8分団	10名	10名
			小計	112名	10名	
			むつみ方面団長 藤井 之賢	むつみ方面団本部	16名	1名
				むつみ第1分団	16名	
				むつみ第2分団	18名	
				むつみ第3分団	14名	
				むつみ第4分団	11名	
むつみ第5分団	9名	9名				
小計	84名	10名				

団名	団長名	副団長名	方面団名	分団名	人数	(女性団員)
萩市消防団	総括団長 吉村辰市	総括副団長 丸田勘次	須佐方面団長 有福和夫	須佐方面団本部	3名	
				須佐第1分団	12名	
				須佐第2分団	18名	
				須佐第3分団	9名	
				須佐第4分団	12名	
				須佐第5分団	11名	
				須佐第6分団	7名	
				須佐第7分団	13名	
				須佐第8分団	8名	8名
				小計	93名	8名
			旭方面団長 野村謙司	旭方面団本部	3名	
				佐々並第1分団	15名	
				佐々並第2分団	12名	
				佐々並第3分団	9名	
				佐々並第4分団	9名	9名
				佐々並自動車分団	18名	
				明木第1分団	11名	
				明木第2分団	11名	
				明木第3分団	12名	
				明木第4分団	9名	9名
				明木自動車分団	12名	
			小計	121名	18名	
			福栄方面団長 藤原悟	福栄方面団本部	18名	
				福栄第1分団	20名	
				福栄第2分団	20名	
				福栄第3分団	14名	
				福栄第4分団	14名	
				福栄第5分団	12名	12名
				小計	98名	12名

合 計	946名	82名
-----	------	-----

<消防団の概要>

令和8年4月1日現在

条例定数 (人)	方面 団数	分団数	実員数 (女性)	水槽付消 防自動車	消防ポン プ自動車	小型動力 ポンプ付 積載車	小型動力 ポンプ付 軽積載車	小型動力 ポンプ	その他
1,244	7	58	946 (82)	0	24	23	18	26	2

分団別	分団数	団員数 (人)	(女性)	水槽付消 防自動車	消防ポン プ自動車	小型動力 ポンプ付 積載車	小型動力 ポンプ付 軽積載車	小型動力 ポンプ	その他
中 央	19	394	18	0	12	4	10	9	1
川 上	3	44	6	0	1	0	3	6	0
田万川	8	112	10	0	2	5	1	0	0
むつみ	5	84	9	0	2	2	1	2	0
須 佐	8	93	8	0	2	5	1	5	0
旭	10	121	18	0	2	6	0	0	0
福 栄	5	98	12	0	3	1	2	4	0

●階級別団員数

令和8年4月1日現在

団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	計
1	21	64	63	61	192	544	946

●団員の在職年数

令和8年4月1日現在

5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上 35年未満	35年以上	計
108	134	124	122	106	129	120	103	946

●年齢別団員数

令和8年4月1日現在

18歳)	20歳)	25歳)	30歳)	35歳)	40歳)	45歳)	50歳)	55歳 以上	団員数	平均 年齢
19歳	24歳	29歳	34歳	39歳	44歳	49歳	54歳		946	51.7
1	7	28	32	58	110	142	178	390		

●団員年報酬

(単位：円)

団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
82,500	69,000	50,500	45,500	37,000	37,000	36,500

●団員出動報酬

(単位：円)

火災	水防	警戒・訓練等	その他
8,000	8,000	6,900	5,000

(※訓練等は、3時間未満の場合は3,450円)

<消防団活動状況>

(令和7年度)

火災		水防		訓練		その他		合計	
回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員
24	394	6	42	263	3,478	512	3,672	805	7,586

萩市住民向け情報配信 登録手順のご案内

- メール配信サービスの利用規約に同意していただいた上で、ご登録をお願いいたします。
- 「@sg-p.jp」ドメイン又は「hagi@sg-p.jp」アドレスからのメール受信許可設定を行ってください。
- URL付きメールの受信を許可する設定を行ってください。

ご登録の前に

1

空メールを送信します。

サイトにアクセスし、「空メールを送信する」から空メールを送信します。

▼PC・スマートフォンの場合

<https://plus.sugumail.com/usr/hagi/home>



メールアドレスで受け取る方はこちら。(登録解除・変更の方もこちら)

メールアドレスを登録していただくことでメールでの情報発信を受け取ることができます。

登録を行う方は以下のボタンより空メールを送信してください。折り返し登録案内メールが届きますので本文を確認の上登録を行ってください。

既に登録済みの方で登録内容の変更や解除を行う場合も以下のボタンより空メールを送信してください。変更・解除用URLをご案内いたします。

空メールを送信する

▼フィーチャーフォン（ガラケー）の場合

<https://m.sugumail.com/m/hagi/home>



空メール送信

新規登録・登録変更・解除などを行う場合は下記よりメールを送信してください。

件名はそのまま送信してください。折り返し登録案内メールを返信いたします。

空メールを送信する

▼共通

「空メールを送信する」を押し、メール画面で何も入力せずにメールを送信してください。

※メールが起動しない場合は、手動でメールを立ち上げ、下記アドレスに空メールを送信してください。

t-hagi@sg-p.jp

2

メールが届きます。

メールに記載された登録用URLを押しします。

萩市住民向け情報配信へ申し込みいただきまして、ありがとうございます。

...

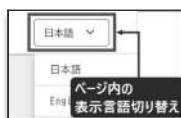
<https://plus.sugumail.com/usr/hagi/mail-user/entry/XXXXXXXX>

※フィーチャーフォンの場合は異なるURLが表示されます。

3

利用規約を確認します。

利用規約をご確認の上「同意する」を押しします。



4

配信カテゴリを選択します。

配信カテゴリ・登録情報を入力して「確認画面へ」を押しします。

登録情報入力

配信カテゴリ選択

防災情報

気象情報

台風情報

地震情報

国民保護情報

阿武川ダム放流情報

登録する配信カテゴリにチェックを入れます。

登録情報を入力して「確認画面へ」を押しします。

戻る 確認画面へ

5

入力内容を確認して登録します。

入力内容をご確認の上「登録」を押しします。登録完了画面が表示されたら登録完了です。

登録情報確認

配信カテゴリ

■ 防災情報

— 気象情報

— 台風情報

— 地震情報

— 国民保護情報

戻る 登録

登録完了

ご登録ありがとうございました。

登録後、登録完了メールが届きます。

登録情報の変更と登録解除

空メールアドレス宛にメールを送信します。返信メールから登録情報の変更などを行います。

■メールアドレス変更

メールアドレス下にある「編集」を押しして手続きしてください。

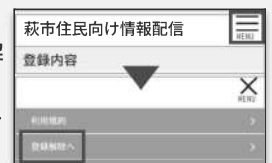
■配信カテゴリ変更

登録情報の「編集」を押しします。配信カテゴリ選択画面が表示されるので内容を確認しながら画面を進めて下さい。

■登録解除

画面右上のメニューを押し「登録解除へ」を押しします。

次の画面で「登録解除へ」を押ししてください。



お問合せ先 総務部防災危機管理課 0838-25-3808

令和8年6月 印刷・発行

編 集 萩市消防本部消防総務課

〒758-0041 萩市大字江向 428 番地 2

TEL : 0838-25-2780 FAX : 0838-26-3945

E-mail : hagisbsoumu@city.hagi.lg.jp

U R L : <http://www.city.hagi.lg.jp/soshiki/24.html>

令和8年 萩市議会 6月定例会

一般質問通告者

質問順序	議席番号	通 告 者	会派・政党	摘 要
1	14	石 飛 孝 道	立志会	6月23日午前
2	5	福 場 正		
3	13	森 田 宗 和	政風会	午後
4	4	水 津 真 澄	萌和会・参政党	
5	12	村 谷 幸 治	蒼成会	
6	3	下 田 洋 香	萌和会	
7	1	榎 谷 紘 司	蒼成会	6月24日午前
8	9	岡 崎 隆 志	立志会	
9	17	西 中 忍	立志会	午後
10	8	浅 井 朗 太	立志会	
11	10	小 林 富	蒼成会	
12	7	山 口 泉	蒼成会	6月25日午前
13	15	美 原 喜 大	政風会	
14	11	松 浦 誠	公明党	午後
15	6	安 井 順 子	公明党	
16	16	森 田 哲 弘	立志会	

質問順位	1	質問者	石飛孝道議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 市民の暮らしを守る、2次救急医療体制や地域医療を今後、いかに維持していくのか市長のお考えを尋ねます	1. 萩医療圏の医療体制を守るために、萩市において2次救急医療体制を再構築するしかありません。救急医療が守れなければ、市民の安全が確保できず、住み慣れた地域で安心・安全に暮らすことが出来ません。市民の暮らしの安全を守るための2次救急医療体制についてお尋ねします。また、これから高齢化が進む中で、地域医療をどのように進められるのかお尋ねします。		
2. 玉江漁港海岸保全事業（西ノ浜）浸食の主な要因は	1. 浸食の原因を特定するためには専門的な調査や解析が必要です。海岸管理の専門家や地質学者と連携し対策を検討することが重要です。市の見解を尋ねます。		
3. 後小畑地区の国道191号線と市道が交わる三差路に信号機の設置は考えられないか	1. 近年、交通量が増える中で、朝の通勤通学の時間帯や夕方への帰りの時間帯には、この三差路は非常に渋滞している状況です。特に市道の奥の方には萩総合支援学校や至誠館大学の通勤通学路になっていまして、朝夕の時間帯には、市道から国道に侵入することが難しい状況です。また、この道路は越ヶ浜小中学校の通学路にもなっていて、先月にはこの三差路で車の接触事故があったと聞いています。子供達の安全確保が求められるところです。市の見解を尋ねます。		
4. 元越ヶ浜市営駐車場の公衆トイレを和式から洋式に一つだけでも変えられないでしょうか	1. これから、多くの方が駐車場をご利用されると思います。また、椿祭りの開催時にはシャトルバスの発着場となり、公衆トイレを使用される方も増えます。おもてなしの心としまして、トイレの改修も必要と思いますが、市の見解を尋ねます。		

質問順位	2	質問者	福場正議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 萩保健医療圏の医療提供体制について		1. 医師会が警鐘を鳴らす「救急搬送の現状」に対する市の危機感について 2. 山口県知事の会見発言を踏まえ、市は今後どのように取り組んでいかれるのか	

質問順位	3	質問者	森田 宗和 議員
質問項目	質問事項及び要旨		
1. 萩市の医療について	<p>1. 萩市外への救急搬送は以前、関議員が質問した時は、年間50件ぐらいだったと記憶しています。令和7年は、100件を超えていると聞いていますが実際の件数をお聞きします。</p> <p>2. 市外にこれだけ多くの救急搬送がある場合、別線バイパスが必要であると思います。私は、医療だけではなく、道路も命にかかわる問題と思いますが、市長は、どう考えていますか。</p> <p>3. 選挙中に、宇部の大学病院に行くのにタクシーを利用している。年金生活で負担が重いとの陳情がありました。以前、関議員も質問されましたが、宇部空港に行っている乗り合いタクシーの利用は考えられないでしょうか。お聞きします。</p> <p>4. 中核病院が一旦破綻となりました。医誠会のプレスリリースや、一部議員からは、前市長の時に合意寸前だったとの主張がありましたが、事実ですか。前市長時代に相手方の病院査定も行っていない。なのに、「合意寸前だった」との表現は、行き過ぎと思いますが、真相をお聞きします。</p> <p>5. このプレスリリースによれば、ゼロベース検討で、中核病院の形成が難しくなったとありますが、田中市長は、この公約を掲げ市長として信任を得たので、このゼロベース検討は、民主主義の手続きとしては必要なプロセスだったと思いますが、市長はどう考えていますか。また、市長は、ゼロベース検討を8か月で、中核病院形成に舵を切っており、長時間立ち止まっていません。ゼロベース検討が、中核病院形成には、支障を及ぼしてはいないと私は考えますが、市長の見解をお聞きします。</p> <p>6. このプレスリリースによれば、『経営統合による中核病院形成は、健全で、持続可能な病院経営の見通しがあつてこそ成立するものと考えております。厚生労働省が「地域医療構想」に基づき、医療機関の再編・機能分化を進める中においても、経営主体の健全性・持続性・透明性の確保は不可欠な前提条件と記載されています。当萩医療圏の地域医療構想で承認された2病院統合計画も、これらが担保されてこそ実現できるものと認識しております』と記載されております。いずれにしても、統合問題は、都志見病院</p>		

質問項目	質問事項及び要旨
	<p>と市民病院の体力強化が必要です。相手方もそうですが、市民病院の健全性・持続性の確保、また、病院経営の見通しなど、今後の市民病院の課題をお聞きします。また、今後も、二次救急医療体制の維持に向けて、連携を密にとってほしいと考えていますが、どのような体制をとっていかれるかお聞きします。</p> <p>7. 以前、萩市民病院は、病院改革として地方独立行政法人を目指されましたが、市民病院の体力強化、診療科目の充実、医師の確保、給料UP等、柔軟な発想、対応ができる地方独立行政法人に移行した方が良いと私は思いますが、市長の見解をお聞きします。</p>
<p>2. 消滅可能性都市「萩市」からの脱却に向けた人口減少対策について</p>	<p>1. 25年国勢調査によれば、20年と比較すると、萩市は、10.8%減少し、初めて4万人を切りました。しかし、長門市(28,832人)11.3%、美祢市(20,145人)13.3%と近隣他市より減少率が低い結果が出ました。自然減少は低いものの、社会減少が貢献しています。給食費の無料化、子育て支援等、移住者、定住者対策などの効果が見られると思いますが、市長の見解をお聞きします。</p> <p>2. 昨年度、総務委員会で、消滅可能性都市からの脱却に向けた人口減少対策について議論しました。小林委員長の発案、ご努力で、至誠館大学の学生にアンケート調査し、結果を踏まえて意見交換も実施しました。</p> <p>学生のアンケート調査では、萩出身者19.4%山口県出身者11.3%合計30.7%の中で、市内就職検討が4.8%、条件検討が14.5%、合計19.3%の方がおられました。また、「市内事業者の説明会や、訪問する機会があれば参加しますか。」の質問に、32.2%の方が参加したいと答えておりました。そして、まとめの中で、「市内企業訪問バスツアーで直接企業を見学してもらうのが効果的だ」と意見がありました。至誠館大学で実施されていると聞きましたが、その実績、効果をお聞きします。</p> <p>3. 萩市の定住政策として、高校生にも市内事業者訪問バスツアーを実施しようではありませんか。市長の見解をお聞きします。</p> <p>4. 私たち総務委員会は、萩ビズに出向き会議をしました。その際に、萩の会社を、保護者、高校の就職担当の先生も</p>

質問項目	質問事項及び要旨
	<p>よくご存じではないのではとの意見も出されました。このバスツアーに保護者、先生もご招待したら理解も深まるのではと思いますが、市長の見解をお聞きします。</p> <p>5. アンケート調査に、「萩市による就職支援で有効と思うものを教えてください」の回答に、50%の学生が、奨学金返済への一部補助の増額と答えておられます。増額は考えられませんか。市長の見解をお聞きします。</p>
<p>3. 観光地「萩」の発展と宿泊税の導入について</p>	<p>1. 私は、宿泊税の導入を、選挙公約に掲げました。宿泊税は、文化財保護、世界遺産の歴史的価値の保護、発信等、将来に渡って持続可能な観光地「萩」として発展していくことが目標です。また、人口の減少が進み、税収が減っている。市民の負担を増やすことなく、自主財源を確保できる宿泊税を導入しませんか。市長の見解をお聞きします。</p> <p>2. 例えば、宿泊者お一人様500円いただければ、年間1億5千万円の安定した財源として活用できます。この財源を利用して、文化財の修繕にも使えます。また、コロナ禍で非常に評判が良かった萩にゃんクーポンの活用により、閑散期の宿泊者の増加、お土産屋（萩焼）さん、飲食業の景気回復、及び、観光振興に大いに役立つと思います。市長の見解をお聞きします。</p> <p>3. 萩市の基幹産業である観光業の景気拡大が、一次産業、建設業、小売業、サービス業の景気を盛り上げると私は思っております。萩市の経済を盛り上げ、多くの業種が潤うようにしていこうではありませんか。宿泊税の導入は、3年～5年かかると聞いております。市内の事業者を守り、地域経済活性化を図ることこそ市政の役割ではありませんか。市長の見解をお聞きします。</p>

質問順位	4	質問者	水津真澄議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 萩産オーガニック食材の給食活用による地域農業支援と、持続可能な食の循環づくりについて		<p>1. 学校給食へ萩産の米や野菜、特にオーガニック食材を優先的に導入する仕組みを構築し、地元の農業支援、地域内経済循環の創出、子育て世帯の移住促進へとつなげる総合的な食農政策について、市の見解と今後の取り組みを問う。</p> <p>(1) 萩産食材の給食利用率低下の要因と改善策について</p> <p>(2) 食料自給率向上と農家の継続支援について</p> <p>(3) 補助金を活用した地域内循環の仕組みについて</p> <p>(4) 給食単価の見直しとオーガニック食材導入の可能性について</p> <p>(5) オーガニック給食の健康効果と移住促進への可能性について</p>	

質問順位	5	質問者	村谷幸治 議員
質問項目	質問事項及び要旨		
1. 教員の働き方改革について	<p>1. 昨年4月の始業日時時点で、全国の公立小中高校と、特別支援学校で教員の不足数が4,317人であったことが文科省の調査で分かりました。山口県では、小学校で14名、中学校で8名の不足が発表されましたが、萩市の状況はどうでしょうか。また、2024年度では全国の公立小学校教諭の22%、中学校教諭の40%が国が上限とする「月45時間」を超える時間外勤務をしていたことが発表されましたが、萩市の実態はいかがでしょうか。</p>		
2. 萩市の人口減少について	<p>1. 2025年の国勢調査の速報値が発表されました。県内13市のうち人口減少率が最も高かったのは美祢市の13.3%、次いで長門市の11.3%、これに続いたのが萩市で10.8%であり、奇しくも北浦3市と呼ばれる美祢市、長門市、萩市の3市がワースト3でありました。世帯数の減少においても、この3市がワースト3を独占する形となっております。萩市におきましては、人口が4万人を割り、世帯数も2万世帯を割っており、特に旧郡部での減少率が增大しております。今後、こういった施策によって若者の流出を防ぐ若しくは、市外から若者を呼び込む手立てを講じていくのかお聞きします。</p>		
3. ごみ袋の供給について	<p>1. 中東情勢を受けて、全国各地で指定ごみ袋が品切れ、品薄になっていると聞いています。萩市ではどうですか。</p>		

質問順位	6	質問者	下田洋香 議員
質問項目		質問事項及び要旨	
<p>1. 不登校児童生徒への多面的な支援と、保護者に寄り添う伴走型ケアについて</p>	<p>1. 文部科学省の不登校対策「COCOLOプラン」では、ゴールを「無理な登校」ではなく「社会的自立」とし、学校復帰のみを前提としない方針が示されています。私自身、親として子どもの不登校を経験してきた当事者としての視点を交え、本市の現状と課題について以下の4点について当局の見解を問います。</p> <p>(1) 過去の議会質疑以降における、本市の不登校支援の具体的な進捗状況と現状の認識について伺います。</p> <p>(2) 孤立しがちな保護者の深い葛藤に寄り添う、日常的な伴走支援について伺います。不登校の親が直面する「何が正解か分からず他家庭と比べてしまい孤独になる」などといった深い葛藤に対し、既存の保護者カフェなどのその場限りの支援にとどまらず、家庭での孤立に寄り添い、もう一步踏み込んで継続的に伴走してくれるような、きめ細やかなサポート体制(SNS相談の活用等を含む)を構築していく考えについて、市の方針を伺います。</p> <p>(3) 令和6年度より開設されている「萩輝きスクール」3分室(須佐・田万川・むつみ)のこれまでの運営状況と、見えてきた現場の課題について伺います。</p> <p>(4) 学校と地域の居場所を繋ぐ柔軟な連携体制と、地域資産の有効活用について伺います。現在、主要な学校等で臨機応変に行われている校内での別室対応などの取り組みをさらに一歩進め、児童生徒や保護者、教員の負担を軽減するため、学校とフリースクール等の地域の居場所がより柔軟に、自由に行き来できるような連携体制を構築する考えはないか伺います。また、広域地域における教育支援格差を解消するため、「休校中の旧弥富小学校を不登校支援の拠点として活用したい」という地域住民の皆様からの切実な要望を真摯に受け止め、既存の休校舎を有効活用して、北東部地域の児童生徒や保護者のアクセス負担を軽減する居場所づくりを進める考えについて、市の見解を問います。</p>		

質問項目	質問事項及び要旨
<p>2.「萩まちじゅう博物館を基盤とした文化観光推進地域計画」を契機とした、萩市全域の文化観光資源の活用と地域回遊の促進について</p>	<p>1. 国の文化庁に採択された本計画は、2029年度までに総事業費約2億7,000万円を投じ、拠点施設来訪者12.5万人、2泊以上の連泊滞在者30%などを目指す大規模な事業です。このまたとない好機を決して外すことなく、確実に大成功へと導くため、以下について市の見解を問います。</p> <p>(1) 現在の進捗状況と、目標達成に向けた手応えについて伺います。</p> <p>(2) 中心部から周辺文化財への回遊性の向上と、現場の課題解決について伺います。連泊滞在者を増やすためには、中心部から周辺エリアへの回遊を促す仕組みが不可欠です。本計画には案内看板(サイン)の整備事業等も盛り込まれていますが、私の地元である川島地区の藍場川周辺を例に見ても、「案内看板の分かりにくさ」「駐車場問題」「広報不足」といった現場の課題が山積しています。こうした具体的な課題に対し、計画の事業をどのように結びつけ、対策を講じていくのか、市の認識と方針を問います。</p> <p>(3) 計画の対象エリア外となっている中山間地域における今後の文化観光の展開について伺います。今回計画の対象外となっている周辺部や広域地域の豊かな文化観光資源をどのように位置づけ、今後市全域の取り組みとして連動させていくのか、当局の方針を問います。</p>

質問順位	7	質問者	榎谷 紘司 議員
質問項目	質問事項及び要旨		
1. 萩市景観計画について	<p>1. 地域の活性化と人口減少対策の観点から、景観条例の運用について質問いたします。</p> <p>萩市では、良好な景観を保全し、魅力あるまちづくりを進めるため景観条例が定められています。平成31年に改正が行われ今日まで運用を行われてきました。そのなかで市民や事業者からは、建築物の改修や看板設置などにおいて手続きや規制が負担となり、空き家活用や新規出店の妨げになっているとの声も聞かれます。</p> <p>特に人口減少や空き店舗の増加が進む中、景観保全の重要性は理解しながらも、地域経済の活性化や民間投資を促進する視点も必要ではないでしょうか。</p> <p>そこでお尋ねします。</p> <p>(1) 市民や事業者から景観条例に関する相談や要望はどのような内容が寄せられているのか。その中で設計変更や事業を断念した事例はどの程度あるのか。</p> <p>(2) 空き家活用や店舗誘致、企業進出を促進する観点から、景観条例の運用基準を柔軟に見直す考えはないか。</p> <p>(3) 萩市では景観形成重点地区と一般地区で基準を分けるなど、メリハリのある運用を行っているが、景観保全と地域活性化の両立に向け、今後どのような方向性で条例運用を進める考えか、市長の見解を伺います。</p>		
2. 駐車場の確保及び管理について	<p>1. 近年、自家用車で萩市を訪れる方が増加傾向です。市内中心部や観光地周辺では、駐車場不足が発生しているとの声を市民や来訪者から聞いております。</p> <p>一方で、市営駐車場については、設置から長期間が経過している施設もあり、利用実態や管理方法について検証が必要ではないかと考えます。</p> <p>そこでお尋ねします。</p> <p>(1) 現在の市営駐車場の利用状況について、市はどのように把握しているのか。</p> <p>(2) 観光地周辺や市街地において、駐車場不足が生じていると認識しているのか。また、その対策を検討しているのか。イベントのホームページでも複数の観光駐車場を案内しているが、繁忙期の受入体制について市の考えを</p>		

質問項目	質問事項及び要旨
	<p>伺います。</p> <p>(3) 市有地や遊休地を活用した新たな駐車場整備の可能性について、どのように考えているのか。</p> <p>(4) 駐車場管理の効率化として、利用状況のデジタル管理やキャッシュレス決済、EV充電設備の整備などを進める考えはあるのか。</p> <p>(5) 今後の観光振興及び中心市街地活性化の観点から、駐車場政策をどのように位置付けているのか、市長の見解を伺います。</p>
<p>3. 子どもの体験格差の是正について</p>	<p>1. 近年、家庭の経済状況や居住地域の違いにより、子どもたちが様々な体験活動に参加する機会に差が生じる「体験格差」が社会問題となっています。</p> <p>自然体験、文化芸術体験、スポーツ活動、職業体験などは、子どもの成長や学びに大きな影響を与えます。しかし、参加費や送迎の問題などにより、十分な機会を得られない子どもも少なくありません。</p> <p>本市においても、すべての子どもたちが等しく多様な体験を得られる環境づくりが必要と考え、以下質問します。</p> <p>(1) 本市は子どもの体験格差についてどのように認識しているのか。</p> <p>経済的理由や地域的要因により体験機会に差が生じている実態を把握しているか。</p> <p>(2) 参加費が負担となる家庭への支援制度はあるか。</p> <p>今後、本市独自の子ども体験パスポート制度を創設し、体験活動を無料または低額で利用できる仕組みの導入を検討できないか。</p> <p>(3) 萩市は豊かな自然や歴史文化を有している。これらを活用した体験活動を多くの子どもたちが経験できる環境こそ、他市にはない特色ある子育て支援になると考えるが、市長の見解を伺います。</p>

質問順位	8	質問者	岡崎隆志議員
質問項目	質問事項及び要旨		
1. 周辺地域の衰退を食い止めるためのビジョンを問う	1. 周辺地域の維持・存続のために何をするのか 2. 農業政策に関するビジョンは 3. 小中学校のあり方検討事業はどう進めるのか 4. 部活動の地域移行・地域展開における地域格差の是正をどうするか		

質問順位	9	質問者	西 中 忍 議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 近年、急速に進んでいる出生数減少の原因をどう分析し、どのような対策が必要と考えているのか	<p>1. 萩市は、人口減少・少子高齢化という大変に難しい問題に直面しています。</p> <p>特に出生数の減少は、近年スピードが加速しているように感じています。</p> <p>そこで、報道でもありましたが、改めて、令和7年の出生数は何人だったのかお尋ねします。</p> <p>また、現在行われている各種無償化事業や給付事業と、現状の関係をどのように分析し、今後どのような対策が必要と考えているか、併せてお尋ねします。</p>		
2. 新たな移動手段の確保に取り組んでみないか	<p>1. 国が法律改正を行い移動手段確保策として、他業種の連携による対応という方向性を示しました。</p> <p>そこで、市として新たな国の方向性に沿った移動手段確保策に取り組む考えがないかお尋ねします。</p>		
3. 萩市の地域医療はどうなるのか	<p>1. 萩市では、救急医療を含めた地域医療を守るため2病院の統合による中核病院形成を進めてきました。</p> <p>しかし、田中市長のゼロベース検討をきっかけに、全く進まなくなり、その結果、中核病院形成がいったん白紙になるという大変に厳しい状況になってしまいました。</p> <p>そこで、ゼロベースを訴えた田中市長は、この結果について、ご自身の責任を含めて、どのように分析しているか、お尋ねします。</p> <p>また、今回の結果を踏まえ、萩市の救急医療を含めた地域医療をどのような手法で守っていこうと考えているか、市長の率直な考えを併せてお尋ねします。</p> <p>さらに、中核病院に関する調査特別委員会の終結時に、関議員、瀧口議員、長岡議員、美原議員、森田宗和議員などが、少数意見として「現在の二次救急医療の状況を改善するには、中核病院の設置のみならず、一次救急医療も含めた萩市全体の救急医療体制の再構築が必要」という主張をしたことに対し、田中市長はどのような見解を持っているかお尋ねします。</p>		

質問順位	10	質問者	浅井朗太議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 大規模な市の施設の総合的な整備計画について	<p>1. 第3庁舎建設に関する議論の中で、本庁舎や市民館をはじめとする「大規模な市の施設の総合的な整備計画」を提示するよう求めてきました。</p> <p>一方直近では、萩市民館大ホールが建物調査の結果により6月1日から利用不可となります。また、市民体育館がLED化工事のため6月から専用利用不可、10月26日からアリーナが利用できなくなります。さらには、将来の小中学校の在り方についての検討を開始され、県立高校の統合再編計画の検討も進められており、なおさら総合的な計画が必要です。その際には、県や国等とも協議・調整を図る必要があると考えます。</p> <p>(1) 「大規模な市の施設の総合的な整備計画」について、見解をお尋ねします。</p>		
2. 玉江漁港海岸保全事業について	<p>1. 6月3日に、堀内地区住民に説明会が行われました。玉江漁港海岸保全事業について以下お尋ねします。</p> <p>(1) 開かれた説明会の参加人数、主な意見をお示してください。</p> <p>(2) 地元の受け止めをどのように市は捉えましたか。</p> <p>(3) 地元だけでなく広く市民に説明会を開く予定がありますか。</p> <p>(4) 「玉江漁港」の範囲をお示してください。図面等の資料提出による明確な説明を求めます。</p>		
3. 萩保健医療圏における2次救急医療の拠点病院の持続的な確保について	<p>1. 持続可能な地域医療確保のため取り組んできた2次救急医療の拠点病院の再編について、当初の手法を一旦断念せざるを得なくなりました。他方で、2040年の人口推計等をターゲットとした新たな地域医療構想の策定が迫っています。</p> <p>萩保健医療圏内での2次救急医療の拠点病院の持続的な確保は、医療を受ける側も、医療を提供する側も望んでいます。</p> <p>(1) 早急に具体的な行動が求められますが、まず何をいたしますか。統合以外の代替案が具体的にあるか否かも含め、</p>		

質問項目	質問事項及び要旨
	<p>端的に提示ください。（医誠会が断念を表明された時点についてまでの経緯の説明は求めません）</p> <p>(2) 医師会有志の会の要望書（令和7年9月及び令和8年4月提出）について、提出された皆さまは市の返答を求めています。どのように対応しましたか。</p>
<p>4. 部活動地域移行について</p>	<p>1. 既に活動を開始しているものも含め、9月から①認定地域クラブ活動 ②体験活動 ③サポート活動の3つの活動に既存の学校部活動は移行・展開されます。</p> <p>(1) 3つの活動それぞれに参加する生徒の数及び割合について、現時点の実数と9月以降の見込みをお示してください。</p> <p>(2) 認定された①認定地域クラブの数と活動の種目及び分野をお示してください。 （これまでの経緯、9月以降の体制などの全体論は求めません）</p>

質問順位	11	質問者	小林 富 議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 物価高騰による市内経済の景況と今後の対策について	<p>1. 市内経済への物価高騰等による影響が深刻であるが萩市としてどのように現状認識に努めて今後の影響をどう考えていますか。</p> <p>2. 萩市が実施する契約等についても状況が日々変化するなかでスライド条項の適用など適切な対応が必要だと考えますが、今後の対応方針をお聞きします。</p> <p>3. これまで物価高騰等の対策としてさまざまな施策が予算化されていますが、DX化による経済対策や市内だけでなく地域全体のDXの活用の必要性が高まっていると考えます。</p> <p>一例では商品券発行事業においては事業執行までの期間や事務コスト（金銭および労務）が発生しており、先進事例を参考としたデジタルでの給付を見据えた整備が不可欠ですが、今後のDX推進に向けた体制、上記の取り組み導入に向けた検討をお聞きします。</p>		
2. 萩市の目指す教育環境と人材育成について	<p>1. 県立高校の再編整備計画・後期実施計画が決定されましたが、萩市からは3項目（①職業学科の確実な継承と産業人材の育成、②複数キャンパス制による教育環境の最大化、③地元への十分な説明と意見聴取）を要望しています。その後の協議などはどうなっていますか。</p> <p>統合方法は萩市だけでなく周辺地域も含めた人材育成に影響を与えますが、萩市はどう取り組みますか。</p> <p>2. 本市が抱える人口減少および少子化対策には経済的支援だけではなく萩市の特色や魅力を活かした施策の展開が必要不可欠と考えます。そのひとつとして地元企業など外部講師と取り組む教育は特色としてだけでなく地域や企業を知る機会となり将来的には就職や地元定着にもつながると考えます。</p> <p>以前にも提案した「味覚の授業」についての進捗、そして、中高生の探求学習や大学とのPBL（課題解決型学習）などさまざまな業種や企業との接点を創出していくことが必要と考えますが萩市の取り組みをお聞きします。</p>		

質問項目	質問事項及び要旨
<p>3. 観光事業における既存施策の検証と新規事業は</p>	<p>1. 萩市が持つ地域資産の保存と活用や交流人口、関係人口の創出にもつなげる観光施策について観光政策課・観光協会、また、その他所管において実施されている既存施策の検証をどう進めますか。</p> <p>また、次年度以降にはどのような新規事業を予定していますか。</p>

質問順位	1 2	質問者	山口 泉 議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 恵美須ヶ鼻造船所跡の整備について	<p>1. 平成27年、「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録された。</p> <p>萩市は、世界遺産の価値を守り、その歴史や魅力を市民や来訪者に伝えるため、5つの構成資産それぞれについて修復・公開活用計画を策定している。</p> <p>その中で恵美須ヶ鼻造船所跡は、萩藩が西洋技術を取り入れ洋式軍艦の建造に挑戦した、日本の造船近代化の最初期を伝える重要な遺構である。しかし、世界遺産登録から11年が経過した現在でも、現場は防波堤と地下遺構の仕切りがあるだけで、市民や来訪者から「価値が十分に伝わっていない」「現地で説明しにくい」といった声が聞かれる。</p> <p>世界遺産は登録がスタートであり、その価値が市民に共有され、来訪者に理解されて初めて、後世に継承されるものとする。そこで尋ねる。</p> <p>恵美須ヶ鼻造船所跡の公開活用計画では2023年の中期段階までに遺構表示や展望デッキを建設する見学路の整備を想定されている。当初の計画が遅れているが、現在の進捗状況を伺う。</p>		
2. 宿泊客数目標と今後の取り組みについて	<p>1. 萩市は、「第2期萩市総合戦略」で令和6年度年間宿泊客数の目標を47万人としていたが、実績は30万人。目標を大きく下回る結果となった。</p> <p>令和7年9月定例会で、その原因として市内大型ホテルの閉鎖等が挙げられたが、市長は同時に、「宿泊客を増やしていくことが必要である」「観光客が宿泊を伴うことで、滞在時間が延び、飲食、小売、交通、体験型観光など、周辺産業への消費が広がる」と答弁された。</p> <p>ところが、令和7年3月に公開された「第3期萩市総合戦略」では、萩市が目指す宿泊客数の目標値が47万人から35万人へと下方修正されている。</p> <p>現実的な目標設定であると考えているが、集客目標を下げた理由と今後の方向性について、市民にも分かりやすく共有していただくことが重要と考える。そこで尋ねる。</p> <p>第3期総合戦略において、宿泊客数の目標値を47万人から35万人へ下げた理由を伺う。また、今後どのように宿泊客数の増加を図っていく考えか伺う。</p>		

質問項目	質問事項及び要旨
<p>3. MICE誘致による集客強化について</p>	<p>1. 令和7年度の萩市の観光客数は385万人で前年とほぼ横ばいであったが、宿泊客数は29万人と前年比約4%減少している。コロナ禍後は回復基調にあったものの、その伸びは頭打ちとなっており、新たな観光需要の創出が必要と考える。</p> <p>特に課題となっているのは、平日や閑散期の集客対策である。宿泊施設や飲食店、土産物店など観光関連事業者の経営を安定させるためには、繁忙期だけでなく、年間を通じて一定の来訪者を確保することが重要である。人口減少が進む萩市において、地域経済を支える交流人口を維持・拡大していくことは喫緊の課題であると考えます。</p> <p>ここで、国は観光戦略の一つとしてMICEを推進しており、萩市においても平成29年度からMICE誘致事業に取り組んでいる。しかし、その取り組みの中心は助成制度であり、金銭補助による支援だけでなく、積極的な営業活動や案件の掘り起こしが求められると考えます。そこで尋ねる。</p> <p>(1) 平成29年度から実施しているMICE誘致事業について、助成制度以外の営業活動やターゲット戦略をこれまでどのように展開してきたのか伺う。</p> <p>(2) 萩市への集客強化を図るため、市は、観光協会、宿泊事業者、飲食事業者、商工団体、萩市などで構成する「萩市MICE誘致協議会」を早期に設立し、官民及び地元関係者が連携して迅速な誘致対策を講じる考えはないか。</p>

質問順位	13	質問者	美原喜大議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 今後の農政の方向性について	<p>1. 今後の法人育成の方向性について聞く。 現状を鑑みると、農政の方向性の転換期に来ていると言えます。今を守るための施策へ、方向性を変える時期と思われませんが、如何にお考えですか。</p> <p>2. 農業法人の今後の継続については、どのような施策・対応が必要とお考えでしょうか。(区画の拡大・GPS付き機械の大型化・スマート農業の取入れ等)</p> <p>3. 草刈り作業の軽減化が必要です。農地管理省力化推進事業が普及しつつあり、軽減化されつつありますが、物価高騰に対して基準補助の単価が追い付いてきていません。基準単価の改定が必要と思われまます。その他、草刈り作業の軽減化に対し、考えておられることはないですか。</p>		
2. 市道・市営住宅について	<p>1. 市道の管理について(年に一度は通行可能か全線確認を)</p> <p>2. おそ吹原の住宅(公特賃住宅)、補助金適化法の期限も切れている。また、古くもなっている。家賃の変更(減額)をできないか。</p>		
3. 議員要望の取扱いについて	<p>1. 議員からの要望は、必ず市長まで報告を挙げる事となっていると聞く。そうなっていますか。徹底されていますか。</p>		
4. 訴訟行為委任事業についての現状を聞く	<p>1. 令和7年4月臨時議会で、予算可決された訴訟行為委任事業について市民の関心度も高いので、次により現状を聞きます。</p> <p>(1) 現在、裁判中と聞きますが、裁判は傍聴が出来ることとなっています。よって、これまでの状況を説明できることとなるはずですが、第1回公判から現在までの状況をそれぞれ報告してください。公な立場として、言えないようなことではないと思いますが。</p> <p>(2) 令和7年度予算の執行は繰越予算となっているようですが、着手金(55万円)として支払った弁護士費用は、市が勝訴した場合に、どうなりますか。</p> <p>(3) 時間がかかっているようですが、何が原因ですか。判決はいつ頃になりますか。</p>		

質問順位	14	質問者	松浦 誠 議員
質問項目	質問事項及び要旨		
1. 「地域インフラ群再生戦略マネジメント（群マネ）」の導入・推進について	1. インフラ老朽化と技術系職員不足の現状認識について 2. 市の「群マネ」導入への見解について		
2. 漁港におけるマネー向上と安全確保について	1. 現状の把握と認識について 2. これまでの取り組みと今後の対策について		

質問順位	15	質問者	安井順子議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 萩医療圏の今後の二次救急医療体制について		1. 萩市全体で課題に向き合う体制の強化 2. 市民と医療現場が希望を持てる「具体的なロードマップ」を	

質問順位	16	質問者	森田哲弘 議員
質問項目	質問事項及び要旨		
1. 会派に対する評価・報道の在り方について	<p>1. 議会内の各会派の姿勢や評価について、執行部としてどのように認識しているのかお尋ねします。</p> <p>2. 議案に対する賛否の判断が、特定の政治的ラベリングとして報道・周知されることについて、市としてどのように受け止めているのかお尋ねします。</p>		
2. 議案審議における説明責任と市政の透明性について	<p>1. 大型事業や市民生活に影響の大きい事業について合意形成や説明責任をどの様に果たしているのかお尋ねします。</p> <p>2. 議会からの質疑や指摘に対し、より丁寧な情報提供や説明責任をどの様に果たしているのかお尋ねします。</p>		
3. 今後の議会運営と市政の基本姿勢について	<p>1. 市長として、議会との関係性をどのように構築し、市政運営を進めていくのかお尋ねします。</p> <p>2. 多様な意見を踏まえた合意形成を今後どのように強化していくのかお尋ねします。</p>		
4. 市民病院と都志見病院との中核病院形成計画中止に対する萩市の今後の対応について	<p>1. 4月28日の都志見病院側による2病院統合中止を受けて先の3月定例会における「中核病院調査特別委員会の委員長報告と少数意見の留保」に対する市長の見解と今後の市の対応についてお尋ねします。</p> <p>2. 4月28日の市長に対して都志見病院側から「市民病院と都志見病院との統合による中核病院形成に関しては、現都志見病院の経営改善を先行させる必要があるためお断りすることを決断した」旨の説明に加え「萩市との連携した中核病院の必要性は、痛感している」との説明であった。この説明における今後の萩市の対応と責務について市長の見解を求めます。</p> <p>3. 中核病院中止を受けて萩市の2次救急医療、特に萩市中心部以外、遠距離の須佐・田万川地域や島しょ部について今後の対応をお尋ねします。</p>		

記者発表（配付）資料

令和8年6月9日

所属部課	部長	課長	係長	担当	連絡先
萩市農林水産部 水産課	市瀬 公俊	服部 哲也	白井 暢	梶本 佑大	0838-25-4195

件名	第21回 萩の和船大競漕及びおしくらごうの結果について
----	-----------------------------

令和8年6月7日に萩市玉江浦で開催された「第21回萩の和船大競漕及びおしくらごう」の結果について、下記のとおりお知らせします。

記

1. 結果

(1) 萩の和船大競漕

【一般の部】

- 出場 = 16チーム（令和7年度16チーム）
優勝：大使館
準優勝：転生したらフルヤンでした
第3位：萩東ロータリークラブ2年生

【女性の部】

- 出場 = 3チーム（令和7年度6チーム）
優勝：ちょこれーと
準優勝：sugarlesz
第3位：sugarlesz Second

【中学生の部】

- 出場 = 7チーム（令和7年度4チーム）
優勝：ジャンボタニシの卵DX（萩西中学校）

【敢闘賞】

GOGO 5（一般の部）、絃創建（一般の部）

(2) 玉江浦「おしくらごう」

- 3地区
優勝：玉江浦青年団（倉江）
準優勝：evolution（浦2区）
第3位：八咫鳥やたがらす（浦1区）

2. 総来場者数 約1,700人（天候：曇り）

3. 主催 萩の和船大競漕実行委員会

4. 共催 萩市、山口県漁業協同組合はぎ統括支店

記者発表（配付）資料

令和8年6月9日

所属部課	部長	課長	係長	担当	連絡先
萩市福祉部福祉政策課	松原功明	村本行繁	恵美奈育子	三井侑子	0838-25-3634

件名	令和8年度「人権の花運動」ひまわり種まき式（川上小学校）について
----	----------------------------------

子どもたちが協力し合いながら花の種や球根を育てることを通じて、心身ともに健全に育成される幼児及び青少年期に、「命の大切さ」や「相手への思いやり」等、人権尊重思想をはぐくみ情操を豊かにすることを目的として、「人権の花運動」を実施しますのでお知らせします。

本年度実施校は、川上小学校と大島小学校の2校です。

- 日時 令和8年6月15日（月） 午前10時40分～午前11時25分
- 場所 川上小学校 中庭（萩市川上4462番地12）
（雨天時：体育館横渡り廊下）
- 参加児童 全学年 8名
（2年生：2名、3年生：1名、5年生：2名、6年生：3名）
- 内容 「人権の花運動」の目的を共有し、児童と人権擁護委員が一緒にひまわりの種まきを行います。
このひまわりの種は昨年度実施の萩市立佐々並小学校からバトンタッチされたものです。
なお、当日は、人権イメージキャラクター「人KEN あゆみちゃん」も参加します。
また、年間を通じて行う「人権の花運動」については、11月に開催予定の「人権のころをはぐくむ市民の集い」において、各小学校が活動内容を報告します。
- 主催 萩管内山口人権啓発活動地域ネットワーク協議会
（山口地方法務局萩支局、萩人権擁護委員協議会、萩市教育委員会、萩市）
- 問い合わせ 川上小学校（担当 吉田教頭）0838-54-2006

記者発表（配付）資料

令和8年6月10日

所属部課	部長	課長	課長補佐	係長	担当	連絡先
萩市農林水産部 林政課	市瀬 公俊	小野 真文	白神 敦司	井上 貴文	阿字雄 竣太	0838-25-4194

件名	萩田床山いこいの広場の利用再開について
----	---------------------

令和8年5月27日付で記者発表をしておりました、萩田床山いこいの広場の利用停止について、その後、新たな目撃情報はなく、関係者と広場周辺の現地調査を行い、クマの痕跡がないことを確認しました。つきましては、下記のとおり施設の利用を再開しますのでお知らせします。

記

■利用再開：令和8年6月12日（金）～ ※毎週水曜日・木曜日は定休日

■利用再開施設：萩田床山いこいの広場（センターハウス、スーパースライダー、ローラースケート）

記者発表（配付）資料

令和8年6月11日

所属部課	部長	課長	班長	担当	連絡先
萩市商工観光部 産業政策課	藤原 章雄	大久保 成彦	中村 和也	村橋 修平	0838-25-3638

件名	三見びわの収穫祭を開催します！
----	------------------------

5月中旬から6月中旬にかけて食べごろとなる三見びわの収穫時期に合わせ、収穫祭が開催されますのでお知らせします。

三見地区は、温暖な気候と海からの穏やかな潮風に恵まれ、古くからびわの栽培が盛んな土地です。特に「三見びわ」は、粒が大きく、果肉がやわらかく、上品な甘さが特徴で、県内外から高い評価を受けています。収穫祭では、この時期にしか味わえない朝採れの新鮮な三見びわを数量限定で販売します。

当日は、びわの直売に加え、地元団体による飲食ブースや特産品販売など、地域の魅力を楽しめる企画も予定しています。家族連れでも気軽に参加でき、三見の初夏を満喫できるイベントです。

旬を迎えた三見びわの味わいと、地域の温かい雰囲気を感じていただける絶好の機会となります。

多くの方に足を運んでいただけるよう、周知にご協力をお願いいたします。

- 日時 令和8年6月14日（日） 午前9時～午後3時
- 場所 道の駅「萩・さんさん三見」（萩市三見 1028 番地 2）
- 内容 三見びわの販売、焼きそば・焼き鳥の販売、萩焼「もりたとうしちがま守田唐七窯」の販売等
- 特典 直売所でお買い物をされた方のうち、先着100名様に記念品を贈呈
- 問合せ 道の駅「萩・さんさん三見」（電話 0838-27-0041）



記者発表（配付）資料

令和8年6月12日

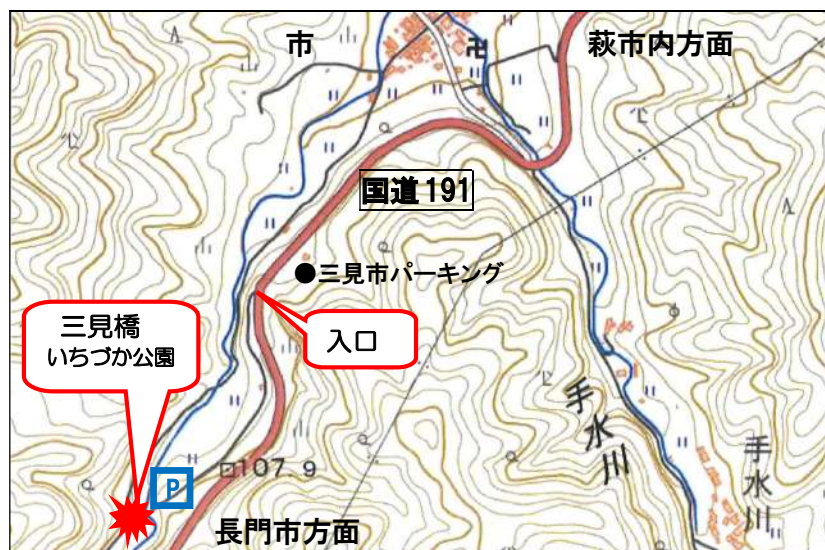
所属部課	部長	所長・担当	連絡先
萩市総合政策部 三見出張所	肌野 次雄	高杉 正毅	0838-27-0001

件名	三見橋（通称：眼鏡橋）の紫陽花 ～咲きはじめました～
----	----------------------------

毎年、皆さんを楽しませてくれる、眼鏡橋（めがねばし）の約150株の色とりどりの紫陽花が、咲きはじめました。この紫陽花は地元ボランティアの方々が心を込めて育てられています。緑の中に咲く美しい紫陽花と石で作られた壮大な眼鏡橋との趣きのある風景をご観賞ください。

【期間】6月中旬～下旬

【場所】萩市三見字梅ノ木 1291-2（三見橋いちづか公園）



※ 国道 191 号から入って約 500m先に三見橋があります

出典：国土地理院

令和8年6月12日

所属部課	部長	課長	班長	担当	連絡先
萩市商工観光部 観光政策課	藤原 章雄	中村 浩二	梶本 学	國守 惇介	0838-25-3139

件名	「萩ヨットレース2026 FINAL」の開催について
----	----------------------------

萩沖の海は沖合に島々が並ぶ美しい景色が広がっており、海岸線は北長門海岸国定公園にも指定されています。

この萩の海の素晴らしさや美しい自然環境を紹介するため、2000年の第1回大会から開催してまいりました「萩ヨットレース」は、本年度の開催をもちまして最後を迎えることとなりました。

この度、27年の歴史を締めくくる「萩ヨットレース 2026 FINAL」を下記のとおり開催いたしますので、お知らせいたします。

萩の美しい海と、海上に浮かぶ色とりどりのセールをお楽しみください。



記

- 日時 令和8年7月19日（日）午前8時～午後5時（予定）
午前 8時10分～ 開会式
[会場：萩市いきいき交流センター（マリーナ萩内）横]
午前 8時20分～ スキッパーズミーティング
※レース参加者によるミーティング
[会場：萩市いきいき交流センター2階]
午前10時00分 レーススタート
午後 4時00分 タイムリミット
午後 4時30分 表彰式・閉会式
(予定) [会場：萩市いきいき交流センター2階]
- レース内容 【距離】14マイル（22km）
菊ヶ浜沖～肥島（1周半）～ツバ瀬（倉江沖）～菊ヶ浜沖
- 参加艇数 募集中
- 主催 萩ヨットレース実行委員会（会長 福間 洋介）
- 共催 萩市、萩ヨットクラブ、萩市観光協会、萩温泉旅館協同組合
- 問い合わせ 萩ヨットレース実行委員会（福間）TEL：090-4693-2947

■萩ヨットレース無料観覧船 乗船者募集！

萩沖の美しい景色と迫力あるレースのスタートを間近で観覧できます。



1. 出航時間 午前9時30分～（約60分）
2. 場 所 萩八景遊覧船（堀内）
3. 定 員 20人（先着順）
※要予約、空席があれば当日受付可
4. 問い合わせ 萩ヨットレース実行委員会（観光政策課内）
電話 0838-25-3139

以上

萩ヨットレース 2026 FINAL 開催要領



事業名 萩ヨットレース 2026 FINAL
主催 萩ヨットレース実行委員会
大会会長 田中 文夫
実行委員長 福間 洋介
レース委員長 山村 信義
共催（予定） 萩市、萩ヨットクラブ、萩市観光協会、萩温泉旅館協同組合

日程及び会場 令和8年7月19日（日）
（長門市は7月12日（日）開催予定）
7：30～8：10 受付
8：10～8：20 開会式（いきいき交流センター横）
8：20～8：40 スキッパーズミーティング（いきいき交流センター2階）
10：00 レーススタート（菊ヶ浜沖）
16：00 タイムリミット
16：30～ 表彰式・閉会式（いきいき交流センター2階）

レース内容 昨年と同様の、クルーザーによる萩菊ヶ浜沖、島廻りコース
※距離 14マイル（22km）
菊ヶ浜沖をスタートし、肥島（1周半）、ツバ瀬（灯台）を廻り菊ヶ浜沖に戻るコース

参加申込方法 出艇申込書を令和8年6月30日（火）までに大会事務局へ提出
送付先：〒758-0041 山口県萩市江向602 萩・明倫学舎3号館1階
萩ヨットレース実行委員会事務局（萩市観光政策課内） 担当 國守

大会参加料 8,000円／1艇
振込先：山口銀行萩支店 普通 口座番号 6372023
口座名義 萩ヨットレース実行委員会 会計 三分一 寛
※振込名義は、参加艇名としてください。
※エントリー後の返金はできません。

その他 いきいき交流センターを休憩場所としてご利用いただけます。
詳細は、別紙（いきいき交流センターの利用について）をご覧ください。
【ご利用可能日】7/12（日）・7/13（月）・7/18（土）・7/19（日）・7/20（月）
萩観光ホテルの日帰り温泉を、半額で利用できる割引券を参加者全員に提供
【価格】 大人（中学生以上）1,000円 ⇒ 大人（中学生以上）500円
【期間】 令和8年7月12日（日）～8月9日（日）
参加者全員に参加賞として、オリジナルタオルをプレゼントします。

お問い合わせ 萩ヨットレース実行委員会事務局 担当 福間 洋介
携帯：090-4693-2947

FAX 0838-26-0716

eメール kankouka@city.hagi.lg.jp

萩ヨットレース実行委員会事務局（萩市観光政策課内） 宛



萩ヨットレース 2026 FINAL 出艇申込書

参加艇名		
艇長名		
艇種		
参加予定人員	人	
住所	〒 —	
電話番号/FAX	— — / — —	
連絡担当者	住所/氏名	〒 —
	電話/FAX	— — / — —
	携帯電話	
	e mail	
	備考	連絡のつきやすい時間帯： いつでも ・ 時頃
寄港・出港予定日	寄港： 月 日 出港： 月 日	

※寄港・出港予定は必ず記入してください。基本的にはレースの1週間前から停泊可能、レースの1週間後までに帰港していただきますが、レース後、1週間以上停泊されたい方は、事前に以下の連絡先まで、ご相談ください。

※参加者におかれましては、各自にて保険等に加入していただきますよう、おすすめいたします。

萩ヨットレース実行委員会事務局（萩市観光政策課内）
〒758-0041 山口県萩市江向 602 萩・明倫学舎 3号館 1階
担 当 國 守
T E L 0838-25-3139
F A X 0838-26-0716
Eメール kankouka@city.hagi.lg.jp

※申込みはこの用紙をFAXまたはeメールして下さい。

記者発表（配付）資料

令和8年6月12日

所属部課	部長	課長	課長補佐	担当	連絡先
萩市市民部 市民活動推進課	廣石 泰則	角屋 祐一郎	廣田 泰道	森岡 栄智	0838-25-3601
所属部課	教育委員会事務局長	館長	副館長	連絡先	
萩市教育委員会 萩図書館	岸田 尚之	佐々木 礼子	森岡 きよみ	0838-25-3828	

件名	第76回“社会を明るくする運動” 内閣総理大臣メッセージ伝達式及び図書館の寄付受納式の開催について
----	------------------------------------------------------

“社会を明るくする運動”とは、すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、新たな被害者も加害者も生まない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な活動です。

7月は、“社会を明るくする運動”強調月間です。この期間にあわせ“社会を明るくする運動”の内閣総理大臣メッセージ伝達式及び図書館の寄付受納式を、下記のとおり実施しますので、お知らせします。

記

- (1) 日時 6月26日(金) 午前11時～正午
- (2) 場所 萩市総合福祉センター 1F 多目的ホール
- (3) 参加団体 萩保護区保護司会、萩市更生保護協会、萩更生保護女性会、
田万川更生保護女性会、須佐更生保護女性会
- (4) 主な内容

○ 萩市推進委員長あいさつ	萩市長	<small>たなか ふみお</small> 田中 文夫
○ 内閣総理大臣メッセージ伝達	萩保護区保護司会 会長	<small>おかざき ともえ</small> 岡崎 智江
○ 図書館の寄付受納式	萩更生保護女性会 会長	<small>おがわ</small> 尾河 あおい
- (5) 主催 “社会を明るくする運動”萩市推進委員会

1. 第76回“社会を明るくする運動”内閣総理大臣メッセージ伝達式

○趣旨 “社会を明るくする運動”に対する住民の理解を深めることを目的に、更生保護関係5団体から市長へ内閣総理大臣メッセージを伝達します。

○伝達者

・萩保護区保護司会	(会長	おかざき なかに おがわ	ともえ のぶる あおい	氏)
・萩市更生保護協会	(会長	なかたに おがわ	のぶる あおい	氏)
・萩更生保護女性会	(会長	おがわ	あおい	氏)
・田万川更生保護女性会	(会長	むらなか なかむら	きょうこ こ	氏)
・須佐更生保護女性会	(会長	なかむら	こ	氏)

2. 図書の寄付受納式

○趣旨 第76回“社会を明るくする運動”強調月間に合わせ、運動への理解を深めるため、萩市立図書館へ図書の寄贈。(17冊3万円相当)

○寄付者

・萩保護区保護司会	(会長	おかざき なかに おがわ	ともえ のぶる あおい	氏)
・萩市更生保護協会	(会長	なかたに おがわ	のぶる あおい	氏)
・萩更生保護女性会	(会長	おがわ	あおい	氏)
・田万川更生保護女性会	(会長	むらなか なかむら	きょうこ こ	氏)
・須佐更生保護女性会	(会長	なかむら	こ	氏)

○寄付の内容 小・中学生を対象とした「命や心を考える」をテーマとする児童向け図書17冊(別紙、図書リストのとおり)

3. 寄付物品の活用

7月の“社会を明るくする運動”強調月間にあわせて、寄付受納式後より、萩図書館内に特集コーナーを設け、寄贈図書を紹介・展示するとともに、貸出を行います。

萩図書館で、7・8月に紹介展示を行った後、10月に萩市立須佐図書館、11月に萩市立明木図書館、12月に田万川中学校図書館と、順次展示を行う予定です。

展示場所に図書リストを貼っていますので、貸出中の本でも予約が可能です。

社会を明るくする運動 寄贈図書リスト

書名	著者名	出版者	価格(税別)
もりもりのもりのくまんとことりさん	ジャーヴィスさく	岩崎書店	¥1,600
王さまのよろい	子鹿 ゆずる作	南々社	¥1,800
この本にはドラゴンなんていないよ!	ドナ・ランボ=ウェイドナーさく	TOブックス	¥2,500
ダイダイジョーブみつばちフローラ	本田 亮作	小学館	¥1,600
タコクマせかいでただひとりのぼく	ALICE & OWEN作	主婦の友社	¥1,600
かっこいいピンクをさがしに	なかむら るみ文・絵	福音館書店	¥1,300
春に恋したねこ	刀根 里衣著	実業之日本社	¥1,800
気持ちがとどく毎日が変わる! つたえるのルール	はびふるガール編集部編	池田書店	¥1,200
ばんざい! ぼくらのフシギ島	辻堂 ゆめ作	主婦の友社	¥1,300
アイラブミー	オッドジョブえ	新潮社	¥1,600
あかいふうせん	山田 和明作・絵	出版ワークス	¥1,900
あのそらをきみにあげたい	かとう ようこ作	教育画劇	¥1,500
いたいのでいたいのとんでいけ	なるかわ しんご作	イマジネーション・...	¥1,800
うさぎのもりのイースター	中井 はるの文	世界文化社	¥1,500
じいじがおしえてくれたこと	アンナ・ウィルソン作	ひさかたチャイルド	¥1,500
おちゃめなふたごのすてきな休暇/さいごの秘密	イーニッド・ブライトン作	ポプラ社	¥1,400
お父さんはなぜ「ご主人」?	河野 哲也著	毎日新聞出版	¥1,400
		小計	¥27,300
		消費税	¥2,730
		合計	¥30,030